

Kansai Economic Insight Monthly

2023/7/24

Vol.123 June/July

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学名誉教授、APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)、豊原法彦(関西学院大学教授)、野村亮輔(APIR 副主任研究員)、郭秋薇(APIR 研究員)、盧昭穎(APIR 研究員)、吉田茂一(APIR 研究推進部員)、今井功(総括調査役/研究員)、新田洋介(調査役/研究員)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

| 目次 | |
|-------------------|-------|
| 要旨 | 1 |
| 総括判断及びトレンドとCI,CLI | 2 |
| 生産・労働関連 | 3 |
| 内需関連 | 6 |
| 景況感 | 11 |
| 外需関連 | 13 |
| 中国景気モニター | 16 |
| 主要月次統計 | 21-22 |
| Release Calendar | 23 |

要旨

景気は足下改善、先行きは足踏みの兆し： 消費は緩やかに回復も輸出減速が景気下押しリスク

- ✓ 関西の景気は**足下改善、先行きは足踏みの兆し**がみられる。足下、生産は2カ月連続の減産だが、1-3月期から幾分持ち直している。雇用環境は底堅く推移し、消費は緩やかに回復している。一方、景況感は物価やコストの上昇もあり悪化が続く。先行きについては海外経済悪化による輸出の減速が景気下押しリスクとなっており、足踏みの兆しがみられる。
- ✓ 5月の生産は2カ月連続の前月比低下。電気・情報通信機械、輸送機械や化学(除、医薬品)等が減産に寄与した。4-5月平均は1-3月期平均に比して幾分持ち直している。
- ✓ 5月は失業率が2カ月連続で改善し、4-5月期の労働力人口と就業者数の平均値はいずれも1-3月期平均を上回っている。また、有効求人倍率が横這いで、新規求人倍率が上昇した。雇用環境は底堅く推移している。
- ✓ 4月の現金給与総額は26カ月連続の前年比増加となったが、目立った増加が見られず、春季労使交渉の結果は速報値に十分に反映されていないようである。実質ベースでは14カ月連続で減少した。
- ✓ 5月の大型小売店販売額は20カ月連続の前年比増加となった。うち、百貨店は外出機会の増加で、衣料品と化粧品などが好調。スーパーは8カ月連続の増加となった。
- ✓ 5月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりに前月比増加。前月の反動増の影響もあり、貸家と分譲は大幅に増加した。
- ✓ 5月の建設工事出来高は17カ月連続の前年比増加。4カ月連続で2桁の伸びとなった。うち公共工事は2桁の伸びが5カ月続いている。また、6月の公共工事請負をみれば、兵庫県神戸市の再開発工事に関連する発注が影響し、2カ月連続の大幅増加となった。
- ✓ 6月の景気ウォッチャー現状判断は2カ月連続の前月比悪化。物価やコスト上昇が続いたことに加え、天候不順で客足が減少したことが影響した。また、先行き判断も3カ月連続で悪化した。
- ✓ 6月の貿易は輸出入ともに前年比減少となり、どちらも減少幅は前月から拡大した。特に輸入は2カ月連続で2桁のマイナスとなった。結果、4-6月期の輸出は前年同期比-4.3%と11四半期ぶりの減少、輸入は同-11.0%と10四半期ぶりの減少となった。
- ✓ 6月の関空への外国人入国者数は2カ月連続で50万人超の水準となり、コロナ禍前の7割を回復した。4-6月期では、16年4-6月期に次ぐ水準となった。
- ✓ 中国の4-6月期実質GDPは前年同期比+6.3%と前期から加速した。しかし、その背景には前年に実施されたロックダウンに対する反動増がある。足下は雇用回復が緩慢なため家計の先行き不安が強く、需要の持ち直しは弱い。そのため、雇用の大幅な改善が見込めない限り、7-9月期の経済成長率は前期より減速する可能性が高い。

【今月の総括判断】

関西の景気は、**足下改善、先行きは足踏みの兆し**がみられる。

足下、**生産**は2カ月連続の減産だが、1-3月期から幾分持ち直している。**雇用環境**は失業率が2カ月連続の改善となり、底堅く推移している。**消費**は百貨店を中心に緩やかに回復しているが、**景況感**は物価やコストの上昇に加え、天候不順による客足の減少で悪化が続いている。**貿易収支**は輸出入とも減速だが、輸入の減少幅が大幅拡大したため、黒字を維持した。**中国経済**は、4-6月期実質GDPは前年のロックダウンの反動で前期から加速したが、足下緩慢な雇用の回復から家計の先行き不安が強い。

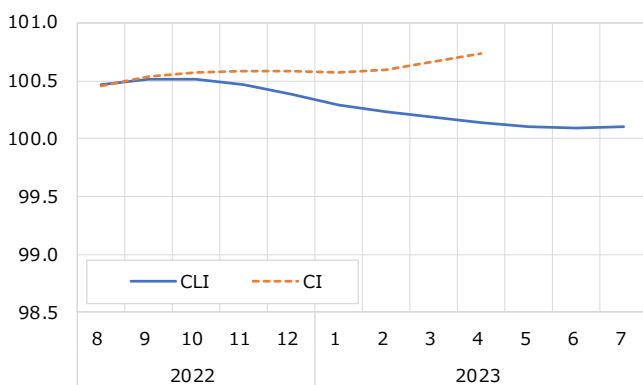
消費は緩やかに回復しているものの、海外経済悪化による輸出減速が景気の下押しリスクとなっており、先行きは足踏みの兆しがみられる。

【関西経済のトレンド及び判断基準】

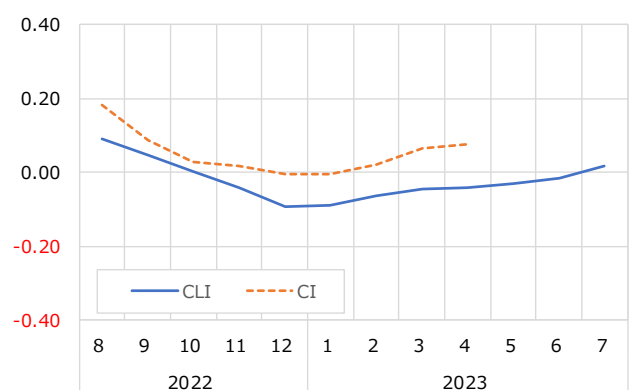
| 各項目 | 2022年 | | | | | | 2023年 | | | | | | 判断基準系列 | 上向き | 下向き |
|-----------|-------|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|----|---|---------------|---------------|
| | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | | | |
| 生産 | ↓ | ↑ | ↑ | ↓ | ↓ | → | ↓ | ↑ | ↑ | ↓ | ↓ | NA | 近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値) 前月比 | +0.5%以上 | -0.5%未満 |
| 雇用 | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↓ | ↓ | ↓ | ↑ | → | NA | 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値) 前月差 | 0.01ポイント以上の改善 | 0.01ポイント以上の悪化 |
| 消費 | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | NA | 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース) 前年同月比 | 1%以上増加 | 1%以上悪化 |
| 住宅 | ↓ | ↑ | → | ↑ | → | ↑ | ↑ | ↑ | → | ↓ | ↑ | NA | 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数 前年同月比 | 5%以上増加 | 5%以上悪化 |
| 公共工事 | ↓ | → | ↓ | ↑ | → | ↓ | ↑ | ↑ | → | ↓ | ↑ | ↑ | 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額 前年同月比 | 5%以上増加 | 5%以上悪化 |
| 景況感 | ↓ | ↑ | ↑ | ↓ | → | ↑ | → | ↑ | ↑ | ↑ | → | ↓ | 内閣府『景気ウォッチャー調査』近畿現状判断(方向性)DI 前月差 | 1ポイント以上の改善 | 1ポイント以上の悪化 |
| 消費者センチメント | ↓ | ↑ | ↓ | → | ↓ | ↑ | → | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↓ | 内閣府『消費動向調査』の消費者態度指数(季節調整値) 前月差 | 1ポイント以上の改善 | 1ポイント以上の悪化 |
| 貿易 | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↑ | → | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | 大阪税関『貿易統計』近畿圏貿易収支(入出超過) 前年同月差 | 500億円以上の改善 | 500億円以上の悪化 |
| 中国 | → | → | ↑ | ↓ | ↓ | ↓ | → | → | ↑ | → | → | → | 各指標を用いて総合的に判断 | - | - |

【関西の景気動向指数(CI一致指数・CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2022年8月～23年7月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2022年8月～23年7月)



(注) 指数は2013年1月～23年4月までのデータで計算されている。

【生産・労働関連】

(1) 生産動向

関西の生産は2カ月連続の減産となり、回復のペースは鈍化している。また、全国は4カ月ぶりの減産となった。

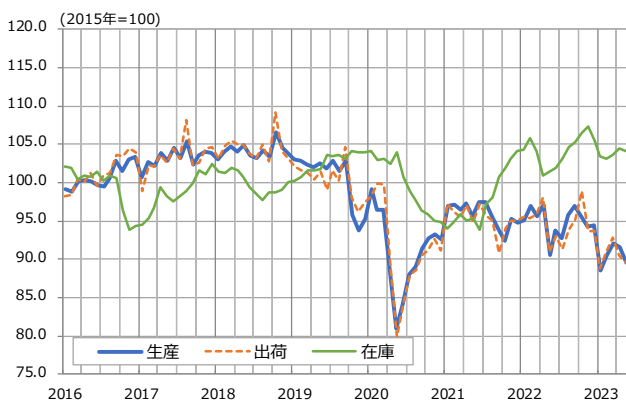
<関西>

関西5月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は89.6で、前月比-2.2%低下した(前月:同-0.5%)。2カ月連続で減産し、23年1月(88.6)以来の低水準となった。4-5月平均を1-3月平均と比較すれば、+0.2%となった(1-3月期:前期比-4.6%)。

5月の生産を業種別にみれば、電気・情報通信機械、輸送機械や化学(除.医薬品)等が減産した一方、汎用・業務用機械や鉄鋼・非鉄金属が増産となった。近畿経済産業局は生産の基調判断を「底堅い動き」と前月から据え置いた。

5月の出荷は89.6、前月比-1.0%と2カ月連続の低下。また、在庫は104.2で同-0.3%と3カ月ぶりに低下した(前月:出荷:同-2.5%、在庫:同+0.8%)。

関西の鉱工業生産動向の推移(2016年1月~23年5月)



関西業種別生産の動向(2023年5月)

| 業種 | | 前月比: % |
|----|-----------|-------------|
| 増産 | 汎用・業務用機械 | +9.3 2カ月ぶり |
| | 鉄鋼・非鉄金属 | +6.4 2カ月ぶり |
| 減産 | 電気・情報通信機 | -11.4 2カ月連続 |
| | 輸送用機械 | -9.5 4カ月ぶり |
| | 化学(除.医薬品) | -5.3 2カ月連続 |

(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

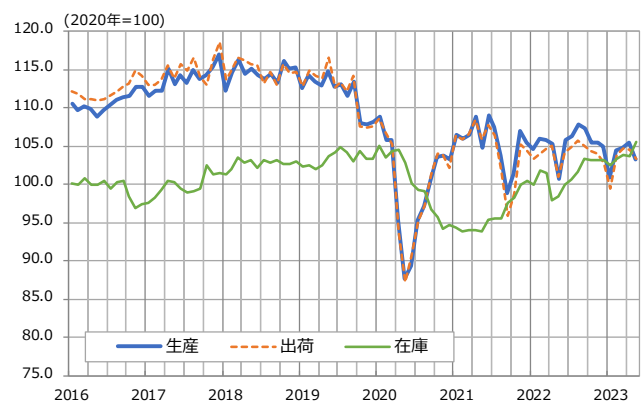
<全国>

全国5月の鉱工業指数(確報:季節調整済、2020年=100)を見ると、生産は103.2であった。前月比-2.2%低下し、4カ月ぶりの減産となった(前月:同+0.7%)。4-5月平均は1-3月平均比+1.0%となった(1-3月期:前期比-1.8%)。業種別にみれば、自動車、電気・情報通信機械や化学(除.無機・有機化学)等が減産した一方、生産用機械、食料品・たばこや鉄鋼・非鉄金属が増産となった。経済産業省は5月生産(速報ベース)の基調判断を前月の「緩やかな持ち直しの動き」から据え置いた。

5月の出荷は103.3で前月比-1.1%と2カ月連続で低下した一方、在庫は105.6で同+1.8%と2カ月ぶりに上昇した。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、6月は前月比+5.6%(補正值:同+3.4%)と増産が、7月は同-0.6%と減産が予測されている。6月の予測指数が実現すれば、4-6月期で前期比+2.4%となり、3四半期ぶりの増産となる。

全国の鉱工業指数の推移(2016年1月~23年5月)



全国業種別生産の動向(2023年5月)

| 業種 | | 前月比: % |
|----|---------------|------------|
| 増産 | 生産用機械 | +3.6 2カ月ぶり |
| | 食料品・たばこ | +2.1 3カ月ぶり |
| | 鉄鋼・非鉄金属 | +1.0 2カ月連続 |
| 減産 | 自動車 | -8.9 4カ月ぶり |
| | 電気・情報通信機械 | -4.4 2カ月ぶり |
| | 化学(除.無機・有機化学) | -4.1 3カ月ぶり |

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

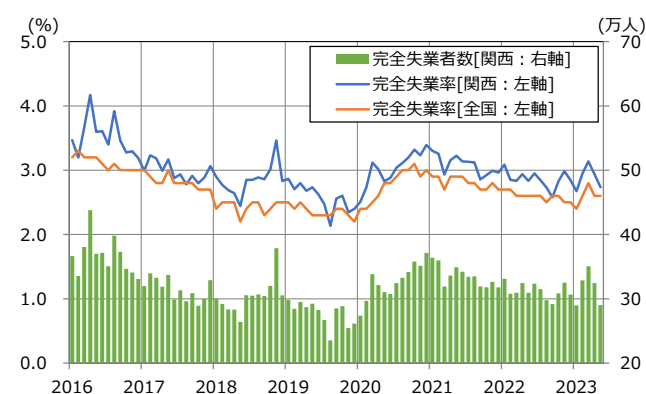
(2) 完全失業者数と就業者数

<関西>

関西 5月の完全失業率は2.7%と前月差-0.2%ポイント低下し、2カ月連続で改善した(以下の関西の数値はAPIRによる季節調整値)。完全失業者数は29万人で同-3万人と2カ月連続の減少。就業者数は1,070万人で同-1万人と2カ月ぶりに、労働力人口は1,100万人で同-4万人と4カ月ぶりに、それぞれ減少した。非労働力人口は695万人で同+3万人と3カ月ぶりに増加した。

失業率は改善したが、就業者数と労働力人口は小幅の減少だった。ただし、15歳以上の人口に占める就業者の割合を示す就業率は59.6%と前月から横ばいとなっている。また、4-5月期の労働力人口と就業者数の平均値はいずれも1-3月期平均を上回っている。雇用情勢は持ち直しているといえよう。

完全失業率の推移(2016年1月~23年5月)



(出所) 総務省「労働力調査」

<全国>

全国5月の完全失業率(以下、季節調整値)は2.6%と前月から横ばいとなった。完全失業者数は177万人で同-3万人と2カ月連続で減少した。また、就業者数は6,736万人で同-8万人と3カ月ぶり、労働力人口は6,913万人で同-13万人と2カ月連続で、それぞれ減少した。非労働力人口は4,104万人で同+16万人と2カ月連続の増加となった。

失業率は悪化を避けられたが、就業者数と労働力人口は減

少した。また、就業率は61.1%と前月より0.1%ポイント低下した。関西と比べて持ち直しの動きが緩やかである。

5月の休業率は2.2%で前月差-0.3%ポイントと2カ月連続で低下した。宿泊業、飲食サービスを除いて、ほぼ全ての産業で休業率は前月より低下した。

(3) 求人倍率

<関西>

関西5月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.21倍で前月から横ばいとなった。有効求人数は前月比-0.2%と2カ月ぶりに減少したのに対して、有効求職者数は同+0.0%と2カ月連続で増加した。両者の変動幅は共に小幅で接近しているため、倍率は変化しなかった。

府県別で見ると、滋賀県、大阪府、兵庫県と和歌山県ではいずれも前月から低下した一方、京都府と奈良県では上昇した。

全国と関西の有効求人倍率の比較

| | 全国 | 関西 | 滋賀県 | 京都府 | 大阪府 | 兵庫県 | 奈良県 | 和歌山県 |
|-----|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|
| 4月 | 1.32 | 1.21 | 1.13 | 1.21 | 1.33 | 1.03 | 1.11 | 1.17 |
| 5月 | 1.31 | 1.21 | 1.12 | 1.23 | 1.32 | 1.01 | 1.14 | 1.16 |
| 前月差 | ▲0.01 | ▲0.00 | ▲0.01 | 0.02 | ▲0.01 | ▲0.02 | 0.03 | ▲0.01 |

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

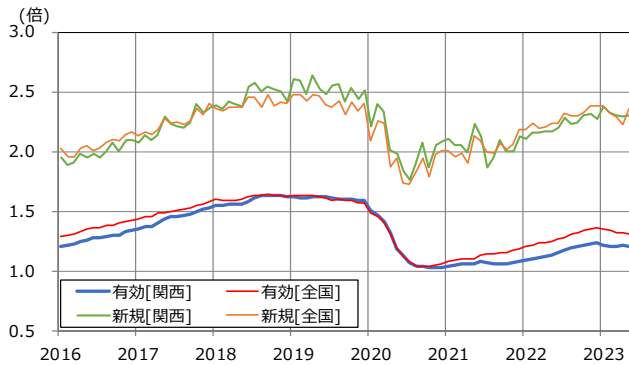
雇用の先行指標である新規求人倍率を見ると、関西5月は2.30倍で前月差+0.02ポイントと4カ月ぶりの上昇。新規求人数は前月比-2.2%、新規求職者数は同-2.8%、それぞれ2カ月ぶりに減少した。前者の減少幅が後者のそれを下回ったため、倍率を幾分押し上げた。

5月の新規求人数を産業別にみれば(原数値)、生活関連サービス業・娯楽業と情報通信業、建設業を除いて、全ての産業で前年同月比はプラスとなっている。宿泊業・飲食サービス業は同+11.1%と前月に続き大幅な伸びとなっている。訪日外客数の増加を受けて、宿泊業・飲食サービス業の労働需要は引き続き増加する。

総じて、有効求人倍率が横ばいで、新規求人倍率が上昇したことから、雇用環境は底堅く推移しているといえよう。た

だし、新規求人数と新規求職者数がともに減少したため、労働需給の動きがやや鈍化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2016年1月~23年5月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

<全国>

全国5月の有効求人倍率(季節調整値)は1.31倍で前月差-0.01ポイントと2カ月ぶりに低下した。新規求人倍率は2.36倍で前月差+0.13ポイントと4カ月ぶりに上昇した。新規求職者数の大幅な落ち込み(前月比-4.9%)は倍率を押し上げた。

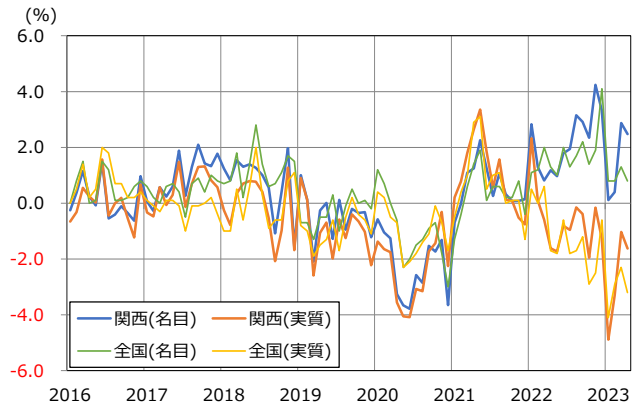
関西と比べて全国の新規求人倍率は大きく上昇したが、その背景には新規求職者数の減少がある。関西より労働供給の回復が緩やかで、労働需給の逼迫度合いが高まっている。

(4) 現金給与総額

<関西>

関西2府4県の4月の現金給与総額(APIR推計)は28万1,248円で前年同月比+2.5%と26カ月連続の増加となった。伸びは前月(同+2.9%)より縮小した。今年の春闘で過去最高額の賃上げを回答した関西主要企業が多いが、4月の速報段階で労使交渉の結果はまだ十分に反映されていないようで、名目賃金は目立った増加が見られなかった。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2016年1月~23年4月)



(注) 関西はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2017年平均)で加重平均

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

なお、現金給与総額の動向を府県別で見ると、全ての府県で増加した。

全国と関西の現金給与総額の前年同月比(%)

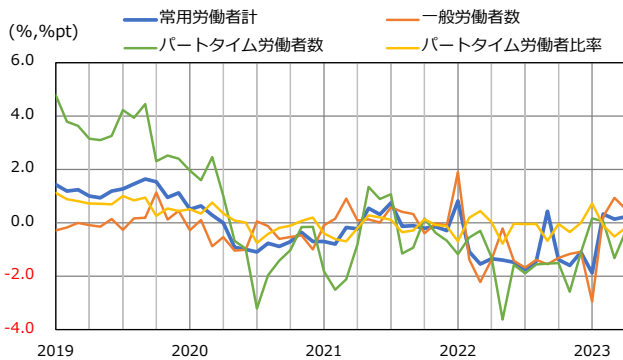
| | 全国 | 関西 | 滋賀県 | 京都府 | 大阪府 | 兵庫県 | 奈良県 | 和歌山県 |
|-----|---------|---------|--------|--------|---------|---------|--------|---------|
| 3月 | +1.3 | +2.9 | -2.7 | +1.8 | +4.0 | +3.1 | -0.1 | +0.1 |
| 4月 | +0.8 | +2.5 | +0.2 | +0.4 | +2.0 | +5.1 | +3.3 | +3.9 |
| 前年比 | 16カ月連続増 | 26カ月連続増 | 4カ月ぶり増 | 3カ月連続増 | 13カ月連続増 | 10カ月連続増 | 4カ月ぶり増 | 12カ月連続増 |

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

また、物価変動の影響(消費者物価指数: 持家の帰属家賃を除く総合)を除いた関西2府4県の実質現金給与総額(実質賃金)は、前年同月比-1.6%と14カ月連続で減少した。減少幅は前月より拡大した(前月:同-1.0%)。消費者物価指数の伸びは2カ月連続で拡大し、名目賃金の伸びを大きく上回っている。

なお、4月の関西2府4県の常用労働者数は前年同月比+0.2%と3カ月連続の増加となった。うち、一般労働者数は同+0.5%と3カ月連続で増加し、パートタイム労働者数は同-0.3%と2カ月連続で減少した。なお、パートタイム労働者比率は34.35%で前年同月から-0.19%ポイントと3カ月連続で低下した。

関西の常用労働者の動態(前年同月比: 2019年1月~23年4月)



(出所) 関西2府4県の自治体の公表資料より作成

<全国>

全国5月の現金給与総額(速報値)は、前年同月比+2.5%と17カ月連続の増加となり、伸びは前月(同+0.8%)から大幅に拡大した。所定内給与は同+1.8%と19カ月連続の増加。所定外給与は同+0.4%と2カ月ぶりの増加。特別に支払われた給与は同+22.2%と4カ月連続の増加。また、現金給与総額を消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)で除した実質現金給与総額(実質賃金)は同-1.2%と14カ月連続で減少した。下落幅は前月(同-3.2%)より縮小した。

春闘での労使交渉の結果が反映されたことで名目賃金は前年12月以来の増加となったが、特別に支払われた給与の増加が目立つ。所定内給与の大幅な増加が見られない限り、実質賃金の下落幅の縮小は一時的なものとなり、来月にまた拡大する可能性が高い。

【内需関連】

(1) 大型小売店販売額

<関西>

関西5月の大型小売店販売額(百貨店+スーパー、全店ベース)は3,149億円の前年同月比+6.3%と20カ月連続の増加となった(前月:同+6.6%)。関西は百貨店の好調で、大型小売店販売額は全国より高い伸び率を示した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2016年1月~23年5月)



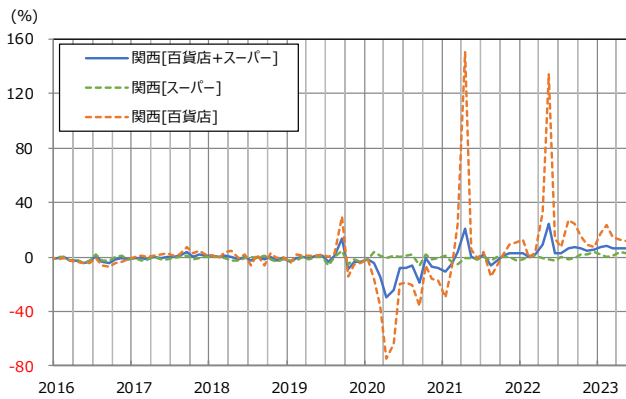
(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

大型小売店販売額のうち、百貨店は前年同月比+11.9%と15カ月連続のプラス(前月:同+12.4%)。商品別にみれば、その他の商品(14カ月連続)、衣料品(15カ月連続)などすべての商品が前年を上回った。新型コロナの5類移行もあり、外出機会の増加で、衣料品と化粧品などが好調。ラグジュアリーブランドも引き続き高い伸びを示した。なお、日本銀行大阪支店によると免税売上高も同+161.0%(前月:同+83.7%)と、全体の売上の上昇に大きく寄与した。

スーパーは前年同月比+3.1%と8カ月連続の上昇となった(前月:同+3.4%)。商品別にみると、衣料品(2カ月連続)が前年を下回ったものの、飲食料品(3カ月連続)、その他の商品(3カ月連続)などが前年を上回った。主力商品である飲食料品の一品単価の上昇が全体の売上を押し上げた。

業態別の推移(前年同月比:2016年1月~23年5月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動向統計」

<全国>

全国 5月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆7,437億円で、前年同月比+3.7%と20カ月連続の増加となった(前月:同+5.3%)。うち、百貨店は同+5.3%(前月:同+7.6%)と15カ月連続、スーパーは同+3.2%(前月:同+4.4%)と9カ月連続で、それぞれ増加した。

小売業販売額(季節調整済指数)は、前月比+1.4%と2カ月ぶりの上昇となった。また、前月比の3カ月後方移動平均は+0.2%増加。経済産業省は小売業の基調判断を「上昇傾向にある」と据え置いた。

(2) 消費者物価指数

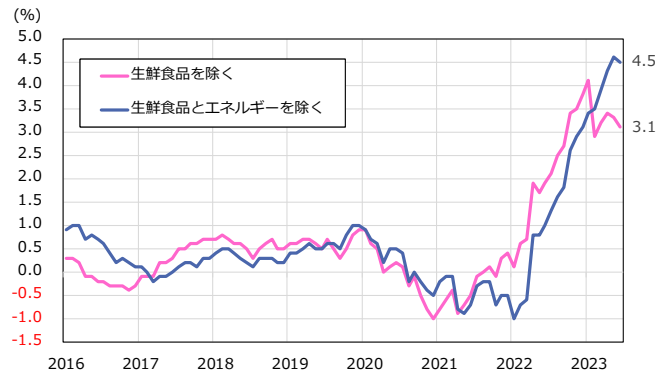
<関西>

関西 6月の消費者物価総合指数(2020年平均=100)は104.7で、前年同月比+3.2%と20カ月連続で上昇した(前月:同+3.4%)。また、生鮮食品を除くコア指数は104.5で同+3.1%と20カ月連続の上昇(前月:同+3.3%)。生鮮食品及びエネルギーを除くコアコア指数は104.7で同+4.5%と15カ月連続の上昇となったが、伸び率が縮小した(前月:同+4.6%)。

総合指数の主な項目をみると、生鮮食品を除く食料が前年同月比+9.5%と24カ月連続の上昇。家具・家事用品は同+9.1%と17カ月連続の上昇。一方、エネルギーは同-12.6%と5カ月連続で下落し、前月よりマイナス幅が拡大した。う

ち、電気代は同-23.7%と5カ月連続で下落した(前月:同-22.6%)。ガス代は同-1.5%と下落し、22カ月ぶりにマイナスに転じた(前月:同+2.1%)。

関西消費者物価指数(前年同月比:2016年1月~23年6月)



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

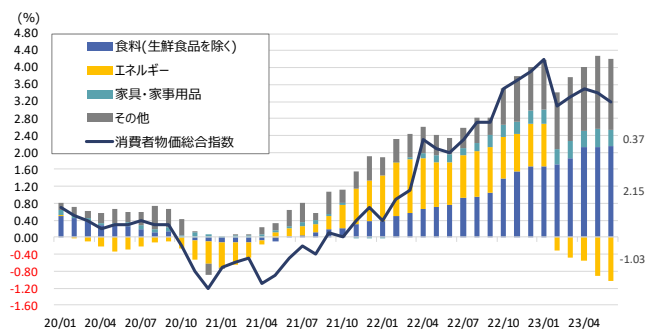
関西消費者物価指数の主な項目(前年同月比:%)

| | 食料 (生鮮食品を除く) | エネルギー | 家具・家事用品 |
|----|-----------------|---------|----------|
| 5月 | 9.3 | -6.8 | 9.8 |
| 6月 | 9.5 | -11.2 | 10.6 |
| | 24か月連続上昇 | 5か月連続下落 | 17か月連続上昇 |

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

なお、総合指数伸び率(+3.2%)への寄与度をみれば、生鮮食品を除く食料は+2.15%ポイント、エネルギーは-1.03%ポイント、家具・家事用品は+0.37%ポイントとなった。

関西消費者物価総合指数の寄与度分解(2020年1月~23年6月)



(注) 寄与度は全国のウェイトを用いて推計

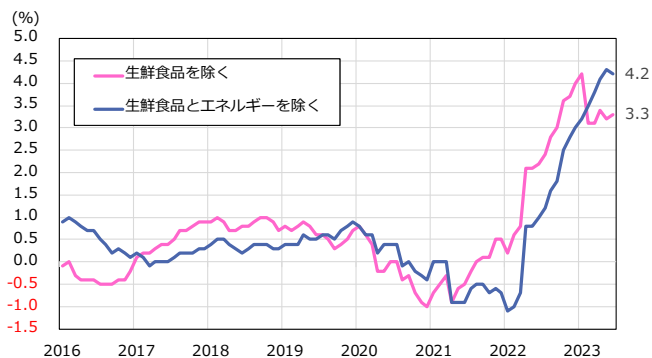
(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

<全国>

全国 6月の消費者物価総合指数(2020年平均=100)は105.2で、前年同月比+3.3%と22カ月連続の上昇となっ

た(前月：同+3.2%)。生鮮食品を除くコア指数は105.0で同+3.3%と22カ月連続の上昇(前月：同+3.2%)。生鮮食品及びエネルギーを除くコアコア指数は104.4で同+4.2%と15カ月連続で上昇したが、伸び率が縮小した(前月：同+4.3%)。

全国消費者物価指数 (前年同月比：2016年1月～23年6月)



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

全国消費者物価指数の主な項目 (前年同月比：%)

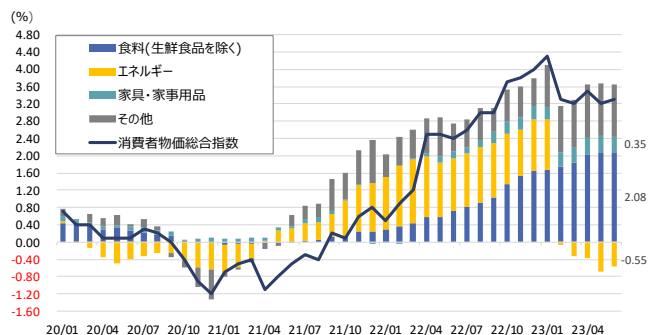
| | 食料 (生鮮食品を除く) | エネルギー | 家具・家事用品 |
|----|-----------------|---------|----------|
| 5月 | 9.0 | -4.4 | 10.0 |
| 6月 | 9.2 | -8.2 | 9.6 |
| | 24か月連続上昇 | 5か月連続下落 | 16か月連続上昇 |

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

総合指数の主な項目をみると、生鮮食品を除く食料が前年同月比+9.2%と24カ月連続の上昇となった。家具・家事用品は同+8.6%と16カ月連続の上昇。一方で、エネルギーは同-6.6%と5カ月連続で下落したが、前月より下落幅が縮小した。うち、電気代は同-12.4%(前月：同-17.1%)と5カ月連続で下落したが、規制料金の値上げで下落幅は縮小。ガス代は同-1.1%(前月：同+2.0%)と22カ月ぶりにマイナスに転じた。

なお、総合指数伸び率(+3.3%)への寄与度をみれば、生鮮食品を除く食料は+2.08%ポイント、エネルギーは-0.55%ポイント、家具・家事用品は+0.35%ポイントとなった。

全国消費者物価総合指数の寄与度分解 (2020年1月～23年6月)



(注) 寄与度は全国のウエイトより推計

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

関西、全国とも6月の消費者物価総合指数の伸び率は3%前半となった。主たる寄与は生鮮食品を除く食料価格は高止まりであり、上昇率の2/3を説明している。なお電気代については、電力大手7社の値上げにより、全国の電気代の下落率が縮小したものの、関西電力は値上げしなかったため、エネルギーの寄与度は関西(-1.03%ポイント)と全国(-0.55%ポイント)で大きな差が生じた。7月以降は、国際原油とLNGなどの燃料価格の下落が反映され、再び物価の押し下げ要因になろう。

(3) 新設住宅着工

<関西>

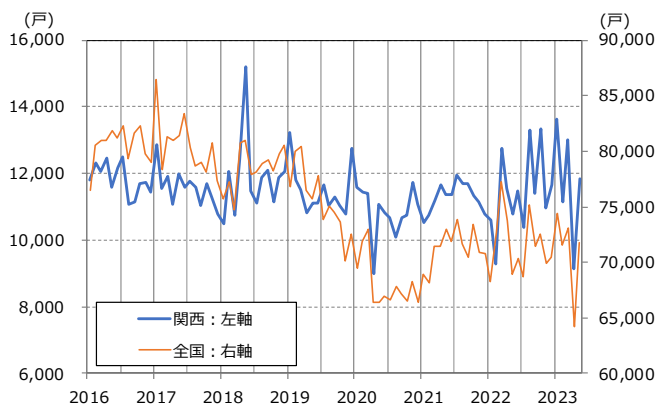
関西5月の新設住宅着工戸数(原数値)は1万649戸となり、前年同月比+9.9%と2カ月ぶりに増加した(前月：同-20.9%)。季節調整値(APIR推計)は1万1,839戸(年率換算値：14万2,065戸)で、前月比+29.7%と2カ月ぶりの増加(前月：同-29.8%)。

利用関係別に見ると(季節調整値)、持家は2,576戸で前月比+8.6%と3カ月ぶりに増加した。貸家は5,061戸で同+24.5%、分譲は4,149戸で同+43.0%(うち、マンション：同+131.6%)といずれも2カ月ぶりの増加となった。

新設住宅着工戸数の4-5月平均を1-3月平均と比較すれば、4月の大幅減が影響し-16.8%と減少した(1-3月期：前

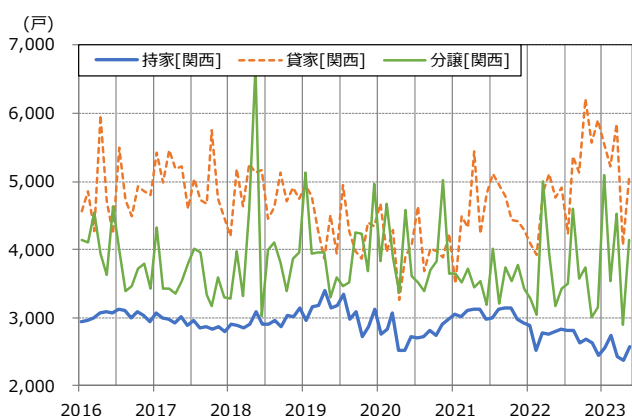
期比+5.1%)。利用関係別では、持家が-4.0%、貸家が-17.7%、分譲は-19.7%といずれも減少した。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値 2016年1月~23年5月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別の推移(季節調整値 2016年1月~23年5月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

<全国>

全国5月の新設住宅着工戸数(原数値)は6万9,561戸となり、前年同月比+3.5%と4カ月ぶりの増加となった(前月:同-11.9%)。季節調整値では7万1,824戸(年率換算値:86万1,888戸)で、前月比+11.8%と2カ月ぶりに増加した(前月:同-12.1%)。

利用関係別に見ると(季節調整値)、持家が1万8,951戸で前月比+0.1%と3カ月ぶり、貸家が3万770戸で同+11.3%と2カ月ぶり、分譲は2万1,479戸で同+23.7%と2カ月ぶりに、いずれも増加した。

4-5月平均を1-3月平均と比較すれば、新設住宅着工戸数(は-6.8%と減少した。利用関係別では、持家が-5.0%、貸家が-1.9%、分譲は-15.2%といずれも減少した。

(4) マンション市場動向

<関西>

関西6月の新築分譲マンション契約率(売却戸数/発売戸数)は74.5%(季節調整値:APIR推計)で、前月差+12.7%ポイント上昇し、3カ月ぶりのプラスとなった(前月:同-9.8%ポイント)。また、好不況の境目である70%を2カ月ぶりに上回った。契約率を府県別に見ると(原数値)、大阪市部(77.8%)と大阪府下(82.2%)などが高水準となった。

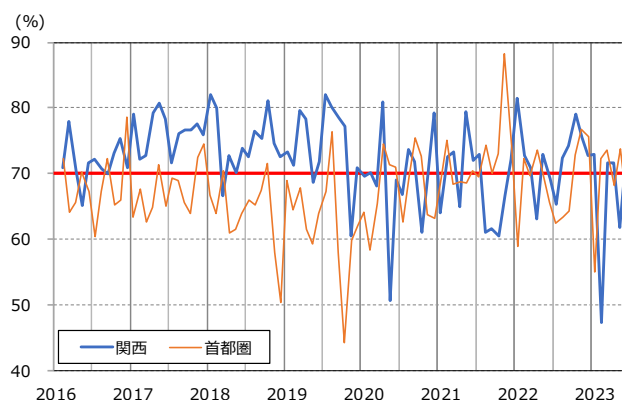
新規発売戸数(原数値)をみると、1,384戸となり、前年同月比+9.8%と3カ月ぶりの増加となった(前月:同-25.7%)。

<首都圏>

首都圏6月の新築分譲マンション契約率は65.8%(季節調整値:APIR推計)、前月差-7.9%ポイントと2カ月ぶりに下落した(前月:同+5.6%ポイント)。また、好不況の境目である70%を2カ月ぶりに下回った。

新規発売戸数(原数値)は1,906戸で前年同月比-0.6%と8カ月連続の減少となった(前月:同-21.5%)。

新築分譲マンション契約率の推移(2016年1月~23年6月)



(出所) 不動産経済研究所「マンション市場動向」

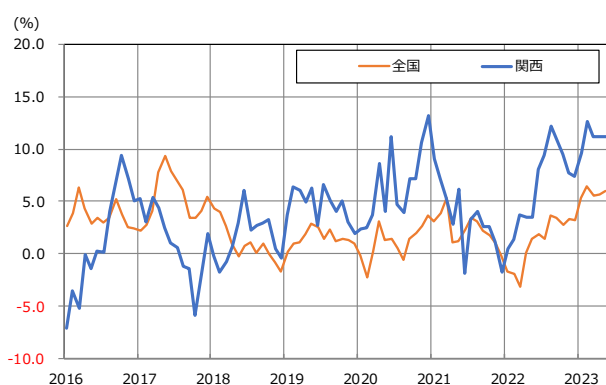
(5) 建設工事

関西、全国ともに前年比増加が続いているが、全国に比して関西の伸びは大きく、2桁の伸びが続いている。

<関西>

関西5月の建設工事(出来高ベース)は6,209億円で前年同月比+11.2%と17カ月連続の増加(前月:同+11.2%)。4カ月連続で2桁の伸びとなった。うち、公共工事は2,148億円となり、同+13.7%と17カ月連続の増加(前月:同+15.3%)。伸びは前月から減速したものの5カ月連続で2桁の伸びが続く。民間工事(建設工事-公共工事)は4,061億円となり、同+9.9%と14カ月連続の増加となった(前月:同+9.0%)。

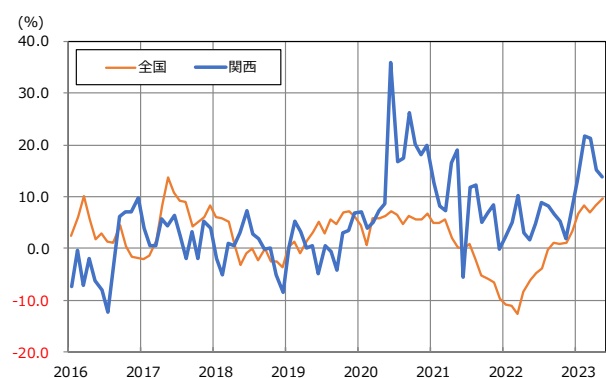
建設工事出来高の推移(前年同月比:2016年1月~23年5月)



(注) 2023年4月分の公表時点で遡及改定された値を反映している

(出所) 国土交通省「建設総合統計」

公共工事出来高の推移(前年同月比:2016年1月~23年5月)



(注) 23年3月以前の地域別の推移は年度報による遡及改定値、4月以降は最新の公表表から作成。

(出所) 国土交通省「建設総合統計」

<全国>

全国5月の建設工事(出来高ベース)は4兆1,722億円で前年同月比+6.0%と14カ月連続の増加となった(前月:同+5.7%)。うち、公共工事は1兆4,275億円となり、同+9.6%と9カ月連続の増加となった(前月:同+8.3%)。民間工事は2兆7,447億円となり、同+4.2%と31カ月連続の増加となった(前月:同+4.3%)。

(6) 公共工事請負金額

6月の公共工事請負は、前月に続き大幅増加した。

<関西>

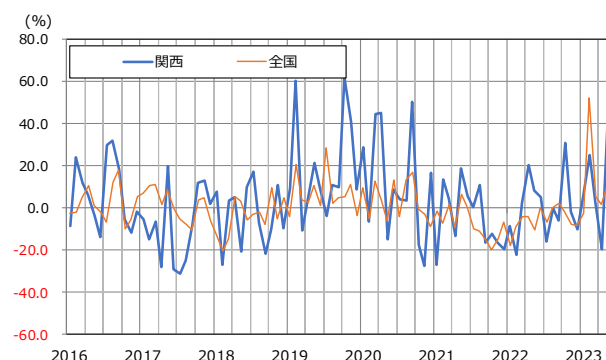
関西6月の公共工事請負金額は2,933億円、前年同月比+64.4%と、2カ月連続の大幅増加となった(前月:同+39.7%)。季節調整値(以下、APIR推計)では、前月比+16.3%と2カ月連続の増加となった(前月:同+64.1%)。

前年同月比への寄与度を発注者別にみれば、増加に寄与したのはその他(+51.0%ポイント)、独立行政法人等(+10.3%ポイント)等であった。その他は、兵庫県神戸市の三宮周辺地区における新たなバスターミナルの整備に向けた再開工事に寄与が大きいとみられる。

<全国>

全国6月の公共工事請負金額は1兆8,151億円、前年同月比+9.9%と5カ月連続の増加であった(前月:同+11.8%)。季節調整値では前月比+6.9%と2カ月連続の増加となった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比:2016年1月~23年6月)



(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【景況感】

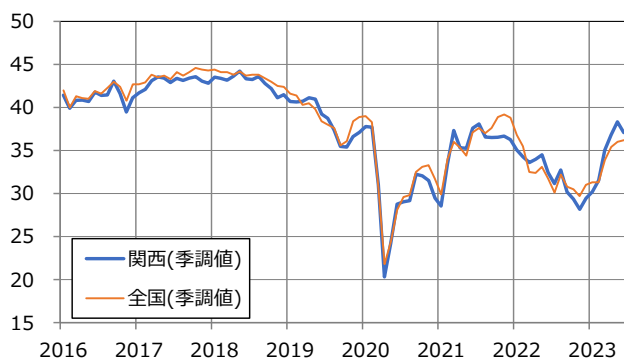
(1) 消費者態度指数

関西は7カ月ぶりに悪化した一方、全国は改善傾向が続く。

<関西>

関西6月の消費者態度指数(季節調整値:APIR推計)は37.1であった(調査期間:6月6日~20日)。前月差-1.2ポイントと7カ月ぶりに低下した(前月:同+1.5ポイント)、指数構成項目全てが前月から悪化した。雇用環境指数(43.6)は前月差-5.3ポイントと7カ月ぶりに低下した。耐久消費財の買い時判断指数(31.0)は同-0.5ポイントと5カ月ぶりの低下。また、収入の増え方指数(39.0)は同-0.4ポイント、暮らし向き指数(35.1)は同-0.0ポイントと、それぞれ7カ月ぶりに低下した。雇用環境指数と耐久消費財の買い時判断指数が悪化したことが影響した。

消費者態度指数の推移(2016年1月~23年6月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

<全国>

全国(季節調整値)は36.2となり、前月差+0.2ポイントと4カ月連続で上昇した。このため、内閣府は6月の基調判断を「持ち直している」と据え置いた。

指数構成項目のうち、収入の増え方指数(37.9)は前月差+1.0ポイント2カ月ぶり、雇用環境指数(43.1)は同+0.3ポイントと7カ月連続でそれぞれ上昇した。一方、耐久消費財の買い時判断指数(29.9)は同-0.4ポイントと4カ月ぶりに低下した。なお、暮らし向き指数(32.9)は前月から横ばい

となった。賃上げの影響もあり、収入の増え方や雇用環境を中心に改善した。

同調査で発表される1年後の物価が5%以上「上昇する」と回答した割合は、関西は53.1%と前月差-0.1%ポイントと4カ月連続で低下した。関西において電気料金の値上げが見送られたことが影響したようである。一方、全国は53.4%と同+0.5%ポイントと4カ月ぶりの上昇。今後も食料品や日用品の値上げが予定されていることから、消費者物価上昇率の高止まりによる悪影響が懸念される。

物価の見通しの推移(2016年1月~23年6月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

6月の現状及び先行き判断は関西、全国いずれも悪化。これまでの改善ペースに鈍化がみられる。

<関西>

関西6月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値、調査期間:6月25日~30日)は54.5で、前月差-1.0ポイントと2カ月連続で低下した(前月:同-0.9ポイント)。景気判断の分岐点である「50」は6カ月連続で上回った。結果、4-6月平均は1-3月平均から+2.4ポイント上昇し、3四半期連続で改善が続いているが、改善のペースは前期(同+4.0ポイント)から鈍化した。

物価やコスト上昇が続いていることに加え、梅雨時期の天候不順で客足が減少したこともあり、小売関連を中心に悪化したようである。

先行き判断DI(季節調整値)は54.3となった。前月差-0.9

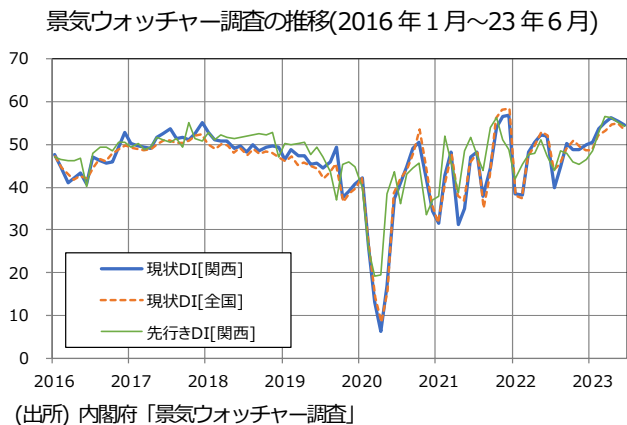
ポイントと3カ月連続で低下したが(前月:同-1.2ポイント)、景気判断の分岐点である「50」を5カ月連続で上回った。スーパーや飲食店などで物価やコスト上昇を懸念する見方が依然多いことから景況感に悪影響した。

<全国>

全国の現状判断DI(季節調整値)は53.6、前月差-1.4ポイントと5カ月ぶりに低下した(前月:同+0.4ポイント)。

また、先行き判断DI(季節調整値)は52.8、前月差-1.6ポイントと2カ月連続で低下(前月:同-1.3ポイント)。関西と同様に現状、先行きはいずれも悪化したが、景気判断の分岐点である「50」をそれぞれ5カ月連続で上回った。

内閣府は全国6月の調査結果を「景気は、緩やかに回復している。先行きについては、5類感染症への移行も終わり、改善テンポに一服感がみられるものの、緩やかな回復が続くとみている」とまとめた。



(3) 全国企業短期経済観測調査：6月調査

4-6月期の関西の業況判断DIは、製造業は3四半期ぶり、非製造業は5四半期連続で、改善した。

<関西>

日本銀行大阪支店が6月に発表した「企業短期経済観測調査(近畿地区)」によれば、業況判断DI(全規模・全産業)はプラス8となり3月調査から+3ポイント上昇した。

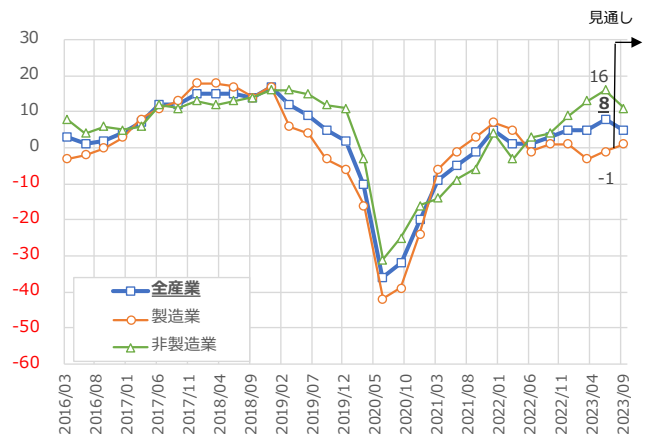
業種別にDIを見れば、製造業ではマイナス1となり3月

調査から+2ポイント上昇し、3四半期ぶりの改善。中でも食料品はマイナス2と、同+20ポイントと大幅上昇した(3月調査:マイナス22)。価格転嫁が進んだことから、食料品及び石油・石炭製品のDIが大きく改善した。

また、非製造業はプラス16と3月調査から+3ポイント上昇し、5四半期連続の改善となった。特に宿泊・飲食サービスはプラス31、同+31ポイント上昇。COVID-19の5類への移行やインバウンドや国内旅行需要の増加から大幅改善した。

先行きについては、製造業はプラス1と引き続き改善するが、非製造業はプラス11と5四半期ぶりの悪化が見込まれている。

関西の業況判断指数(DI)：2016年3月~23年6月



(注) 全産業、製造業、非製造業(いずれも全規模ベース)。

(出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」より作成

<全国>

全国の業況判断DI(全規模・全産業)はプラス8となり3月調査から+3ポイント上昇し、2四半期ぶりに改善した。うち、製造業はマイナス1と2四半期ぶりに、非製造業はプラス14と5四半期連続でそれぞれ改善した(3月調査:製造業マイナス4、非製造業プラス12)。

【外需関連】

(1) 貿易概況

6月の貿易は輸出入ともに前年比減少となり、どちらも減少幅は前月から拡大した。特に輸入は2カ月連続で2桁のマイナスとなった。

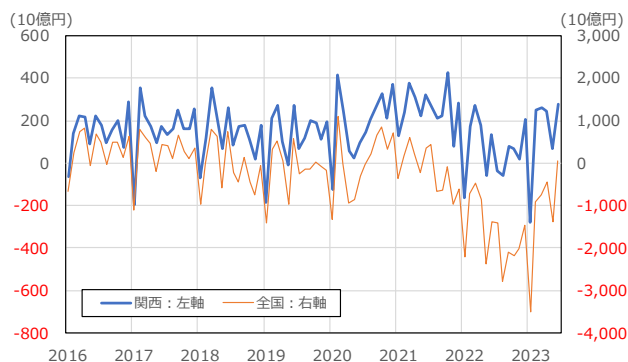
<関西>

財務省「貿易概況(速報)」、大阪税関「近畿圏貿易概況・速報」によれば、関西6月の貿易収支は+2,772億円と5カ月連続の黒字で、黒字幅は前月(+666億円)から拡大した。4-6月期の貿易収支は+5,912億円となり、3四半期連続の黒字となった。黒字幅は前年同期比+128.7%と大幅拡大した。

<全国>

全国6月の貿易収支は+430億円と、23カ月ぶりの黒字(前月:-1兆3,819億円)となった。4-6月期の貿易収支は-1兆7,752億円となり、8四半期連続の赤字。赤字幅は前年同期比-61.4%縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2016年1月~23年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

<関西>

関西6月の輸出額は1兆8,077億円で、前年同月比-7.1%と2カ月連続の減少(前月:同-6.4%)。財別にみれば、主に半導体等電子部品、鉱物性燃料等が減少に寄与した。結果、4-6月期は前年同期比-4.3%と11四半期ぶりの減少となった(前期:同+2.1%)。中でも、対アジア輸出が同-9.2%と2

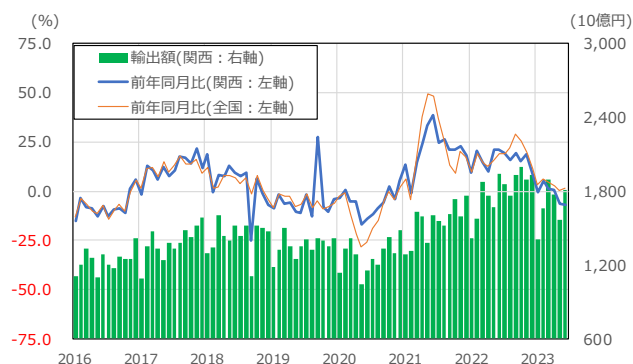
四半期連続で減少したことが影響している。

<全国>

全国6月の輸出額は8兆7,441億円で前年同月比+1.5%と、28カ月連続の増加(前月:同+0.6%)。6カ月連続で1桁の伸びにとどまっている。主に自動車、建設用・鉱山用機械、船舶等が増加に寄与した。結果、4-6月期は前年同期比+1.6%と10四半期連続の増加だが、3四半期連続で減速している(前期:同+4.8%)。

なお、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西6月の実質輸出(速報)は106.9(季節調整値、2020年平均=100)で前月比+2.5%と、2カ月ぶりの上昇(前月:同-3.8%)。全国6月の実質輸出は115.8で同+5.4%となり、2カ月ぶりに上昇した(前月:同-3.5%)。結果、4-6月期の実質輸出は、関西は前期比+0.0%と前期から横ばいとなった(1-3月期:同-4.4%)。全国は同+2.7%と3四半期ぶりの上昇となった(1-3月期:同-3.4%)。

関西・全国の輸出の推移(2016年1月~23年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

<関西>

関西6月の輸入額は1兆5,305億円で、前年同月比-15.5%と3カ月連続の減少となり、マイナス幅は前月(同-13.3%)から拡大した。財別に見ると、主に医薬品、原油及び粗油等が減少に寄与した。結果、4-6月期は前年同期比-11.0%と10四半期ぶりの減少となった(前期:同+3.3%)。中でも、対アジア輸入が同-4.5%と10四半期ぶりに減少し

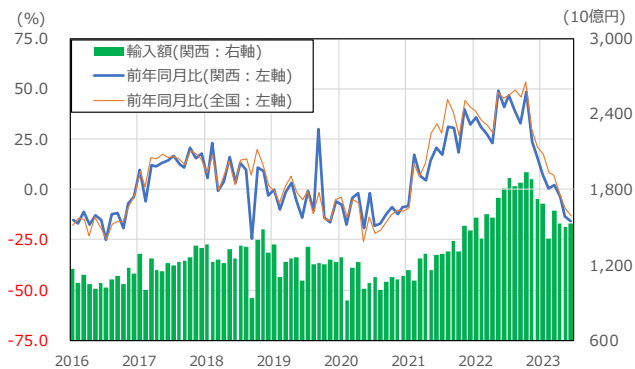
たことに加え、対 EU 輸入が同-29.5%と大幅に減少したことが影響している。

<全国>

全国 6 月の輸入額は 8 兆 7,010 億円で、前年同月比-12.9%と 3 カ月連続の減少となった(前月：同-9.8%)。財別にみると原油、石炭、液化天然ガス等が減少に寄与した。結果、4-6 月期は前年同期比-8.5%と 10 四半期ぶりの減少となった(前期:同+11.2%)。

また、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西 6 月の実質輸入(速報)は 98.0(季節調整値、2020 年平均=100)で前月比+2.3%と、2 カ月ぶりの上昇(前月：同-7.3%)。全国 6 月の実質輸入は 105.4 で同+2.7%となり、2 カ月ぶりの上昇であった(前月：同-6.1%)。結果、4-6 月期の実質輸入は 5 月の大幅低下が影響し、関西は前期比-2.0%と 2 四半期連続の低下(1-3 月期：同-7.3%)。全国は同-1.1%と 2 四半期連続の低下となった(1-3 月期：同-5.1%)。

関西・全国の輸入の推移(2016年1月~23年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 地域別貿易

<対アジア貿易>

関西 6 月の対アジア貿易収支は+2,160 億円と 5 カ月連続の黒字(前年同月比-15.6%)。対アジア輸出額は前年同月比-10.4%と 6 カ月連続、輸入額は同-9.1%と 2 カ月連続で、いずれも減少となった。なお、注意すべきことは輸出の減少幅は 4 カ月連続で拡大していることである。

対アジア貿易収支

(単位：億円,%)

| 関西 | 2023/6 | | | 貿易収支の推移 |
|--------|--------|-------|-------|----------|
| | 貿易収支 | 前年同月比 | 前年同月差 | |
| 対アジア | +2,160 | -15.6 | -399 | 5カ月連続の黒字 |
| 対中国 | -344 | -59.6 | +508 | 4カ月連続の赤字 |
| 対ASEAN | +607 | -0.4 | -2 | 5カ月連続の黒字 |

対アジア輸出額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西 | 2023/6 | | 前年比の推移 |
|--------|--------|-------|----------|
| | 輸出額 | 前年同月比 | |
| 対アジア | 11,185 | -10.4 | 6カ月連続の減少 |
| 対中国 | 4,309 | -9.3 | 2カ月連続の減少 |
| 対ASEAN | 3,005 | -5.7 | 3カ月連続の減少 |

対アジア輸入額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西 | 2023/6 | | 前年比の推移 |
|--------|--------|-------|----------|
| | 輸入額 | 前年同月比 | |
| 対アジア | 9,025 | -9.1 | 2カ月連続の減少 |
| 対中国 | 4,652 | -16.9 | 2カ月連続の減少 |
| 対ASEAN | 2,398 | -7.0 | 3カ月連続の減少 |

(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

うち、対中貿易収支は-344 億円と 4 カ月連続の赤字(前年同月比-59.6%)。対中輸出額は前年同月比-9.3%、輸入額は同-16.9%と、いずれも 2 カ月連続の減少となった。輸出では半導体等電子部品、非鉄金属等が、輸入では通信機、衣類及び同附属品等がそれぞれ減少に寄与した。

対 ASEAN 貿易収支は+607 億円と 5 カ月連続の黒字(前年同月比-0.4%)。対 ASEAN 輸出額は前年同月比-5.7%、輸入額は同-7.0%と、いずれも 3 カ月連続の減少となった。輸出では鉄鋼、電気計測機器等が、輸入では石炭、有機化合物等がそれぞれ減少に寄与した。

<対欧米貿易>

対米貿易収支は+1,774 億円の黒字(前年同月比+1.1%)。対米輸出額は同-0.0%と 28 カ月ぶり、輸入額は同-1.4%と 14 カ月ぶり、いずれも減少となった。輸出では食料品、原料品等が、輸入では天然ガス及び製造ガス、穀物及び同調製品等がそれぞれ減少に寄与した。

対 EU 貿易収支は+104 億円と 2 カ月ぶりの黒字(前年同月差+468 億円)。対 EU 輸出額は同-0.9%と 2 カ月連続で、輸入額は同-21.4%と 7 カ月連続で、いずれも減少となった。輸入は 6 カ月連続で 2 桁のマイナスとなっている。輸出では無機化合物、自転車及び同部分品等が、輸入では医薬品、木材等が減少に寄与した。

対欧米貿易収支

(単位：億円,%)

| 関西 | 2023/6 | | | 貿易収支の推移 |
|-----|--------|-------|-------|-----------|
| | 貿易収支 | 前年同月比 | 前年同月差 | |
| 対米国 | +1,774 | +1.1 | +20 | 88年1月以来黒字 |
| 対EU | +104 | - | +468 | 2カ月ぶりの黒字 |

対欧米輸出額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西 | 2023/6 | | 前年比の推移 |
|-----|--------|-------|-----------|
| | 輸出額 | 前年同月比 | |
| 対米国 | 3,156 | -0.0 | 28カ月ぶりの減少 |
| 対EU | 1,880 | -0.9 | 2カ月連続の減少 |

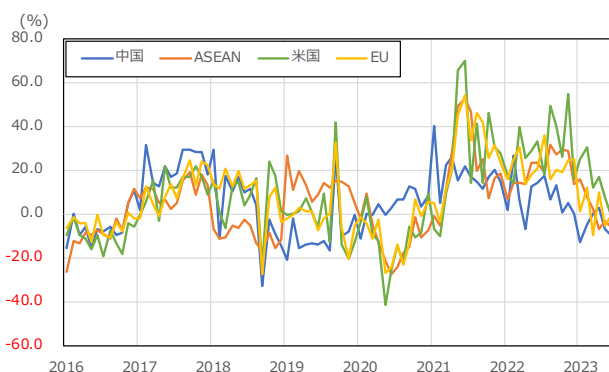
対欧米輸入額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西 | 2023/6 | | 前年比の推移 |
|-----|--------|-------|-----------|
| | 輸入額 | 前年同月比 | |
| 対米国 | 1,382 | -1.4 | 14カ月ぶりの減少 |
| 対EU | 1,776 | -21.4 | 7カ月連続の減少 |

(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

関西の地域別輸出推移(前年同月比:2016年1月～23年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

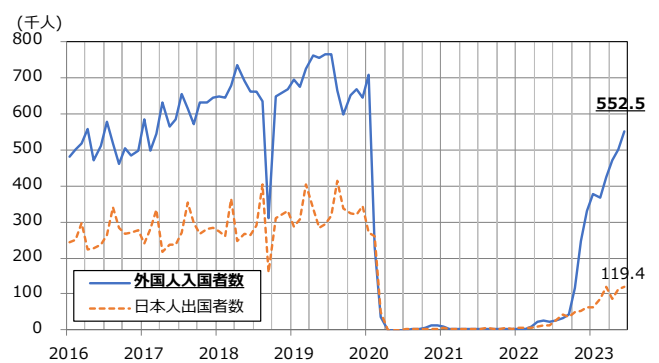
(5) 関西の出入国者数

関西 6 月の外国人入国者数は 2 カ月連続で 50 万人超の水準となり、コロナ禍前の 7 割強(2019 年同月比-27.9%)を回復した。法務省「出入国管理統計(速報値)」によれば、6 月の関西経由の外国人入国者数は 55 万 2,492 人と前月(50 万

1,210 人)から増加した 4-6 月期では 152 万 5,597 人となりコロナ禍前の 6 割強(19 年同期比-33.2%)を回復し、16 年 4-6 月期(153 万 9,351 人)に次ぐ水準となった。

また、6 月の日本人出国者数は 11 万 9,404 人と、2 カ月連続で 10 万人超の水準となった(2019 年同月比-59.6%)。4-6 月期では 31 万 8,620 人と、1-3 月期(27 万 1,726 人)から増加したが、依然回復のペースは緩やかである(19 年同期比-65.3%)。

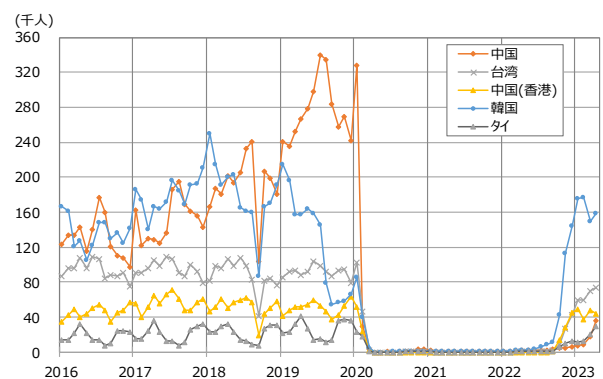
関西訪日外客数と出国日本人数の推移(2016年1月～23年6月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

4 月の出入国管理統計月報では、関西への訪日外客総数は 47 万 1,893 人、2019 年同月比-38.3%となった(前月：42 万 5,326 人、同-41.4%)。上位 5 カ国・地域をみれば、韓国が 15 万 8,791 人と最多となった。2019 年同月比では +1.0%まで回復した。次いで台湾が 7 万 3,493 人(同-16.4%)、香港が 4 万 4,399 人(同-15.2%)、中国が 3 万 5,857 人(同-86.6%)、タイが 2 万 9,837 人(同-28.3%)と続く。

上位 5 カ国・地域別訪日外客数(2016年1月～23年4月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

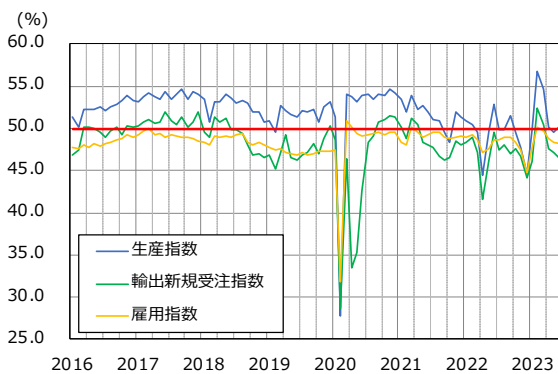
【中国景気モニター】

(1) センチメント

6月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.0%で、前月差+0.2%ポイントと4カ月ぶりの上昇となった(前月:同-0.4%ポイント)。しかし、景気判断の分岐点である50%を3カ月連続で下回っている。

4-6月期をみれば49.0%で前期差-2.5%ポイントと2四半期ぶりの下落(1-3月期:+3.5%ポイント)。景気判断の分岐点である50%を2四半期ぶりに下回った。

製造業購買担当者景況指数(2016年1月~23年6月)



(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

指数構成項目の動きは以下の表のとおりである。50%を上回ったものは生産指数のみにとどまり、特に輸出新規受注が4カ月連続で前月差マイナスが続いている。海外経済減速が影響した。

製造業購買担当者景況指数(2023年5月~6月)

| | 2023/05 | 2023/06 | 前月差 | (単位:%,%pt) |
|--------------|---------|---------|------|------------|
| PMI: 製造業 | 48.8 | 49.0 | +0.2 | 4カ月ぶりの上昇 |
| サブ指標 (全13項目) | | | | |
| 生産指数 | 49.6 | 50.3 | +0.7 | 4カ月ぶりの上昇 |
| 新規受注指数 | 48.3 | 48.6 | +0.3 | 4カ月ぶりの上昇 |
| 輸出新規受注指数 | 47.2 | 46.4 | -0.8 | 4カ月連続の下落 |
| 雇用指数 | 48.4 | 48.2 | -0.2 | 4カ月連続の下落 |

(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

建設業やサービス業などを対象とする非製造業 PMI は53.2%で、前月差-1.3%ポイントとなった(前月:同-1.9%ポイント)。3カ月連続の下落となった。23年に入って最も低水準となり、非製造業の活動に鈍化がみられる。

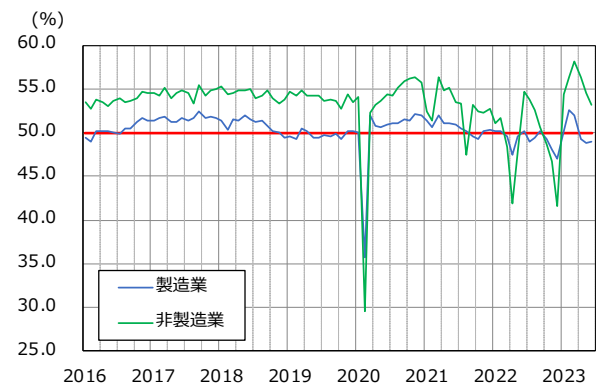
非製造業 PMI のうち、建設業の活動指数は55.7%と前月差-2.5%ポイント、サービス業の活動指数は52.8%と同-1.0%ポイント、いずれも3カ月連続の下落となった。

非製造業購買担当者景況指数(2023年5月~6月)

| | 2023/05 | 2023/06 | 前月差 | (単位:%,%pt) |
|--------------|---------|---------|------|------------|
| PMI: 非製造業 | 54.5 | 53.2 | -1.3 | 3カ月連続の下落 |
| サブ指標 (全10項目) | | | | |
| 新規受注指数 | 49.5 | 49.5 | ±0 | 横ばい |
| 雇用指数 | 48.4 | 46.8 | -1.6 | 2カ月ぶりの下落 |
| 非製造業: 建設業 | 58.2 | 55.7 | -2.5 | 3カ月連続の下落 |
| 非製造業: サービス業 | 53.8 | 52.8 | -1.0 | 3カ月連続の下落 |

(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2016年1月~23年6月)



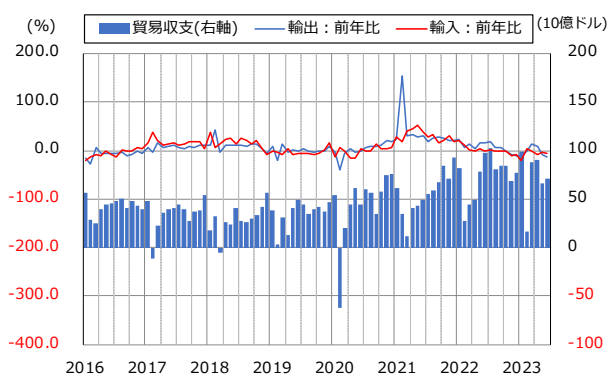
(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

(2) 貿易動向

6月の貿易収支(速報値:ドル・ベース)は+706.2億ドルと、20年3月以来、40カ月連続の黒字だが(前月:+658.1億ドル)、黒字幅は前年同月比-27.5%と2カ月連続の縮小となった。輸出額は2,853.2億ドルで、同-13.0%と2カ月連続の減少(前月:同-7.5%)。一方、輸入額は2,147.0億ドルで、同-6.9%と原油価格の下落もあり、4カ月連続の減少となった(前月:同-4.5%)。

4-6月期をみれば、貿易収支は+2,266.3億ドルの黒字であった。前年同期比+0.6%となり、1-3月期(同+33.0%)から大幅縮小した。輸出額は同-4.7%と2四半期ぶりに(1-3月期:同+0.5%)、輸入額は同-6.4%と3四半期連続で(1-3月期:同-7.0%)、それぞれ減少した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2016年1月~23年6月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース

地域別に見ると、6月の対日貿易収支は-11.1億ドルで、3カ月ぶりの赤字となった(前月: +1.1億ドル)。対日輸出額は124.9億ドルとなり、前年同月比-15.6%と2カ月連続の減少。対日輸入額は136.1億ドルとなり、同-14.3%と16カ月連続の減少となった。

対韓貿易収支は-13.4億ドルで、2カ月連続の赤字となった(前月: -4.8億ドル)。対韓輸出額は126.2億ドルで前年同月比-19.8%と2カ月連続の減少。対韓輸入額は139.6億ドルとなり、同-15.4%と15カ月連続の減少。また、9カ月連続の2桁減となった。

対ASEAN貿易収支は+92.2億ドルで、20年3月以降40カ月連続の黒字(前月: +104.2億ドル)。対ASEAN輸出額は433.0億ドルで前年同月比-16.9%と2カ月連続の減少(前月: 同-15.9%)。対ASEAN輸入額は340.8億ドルで同-4.1%と4カ月連続の減少であった。

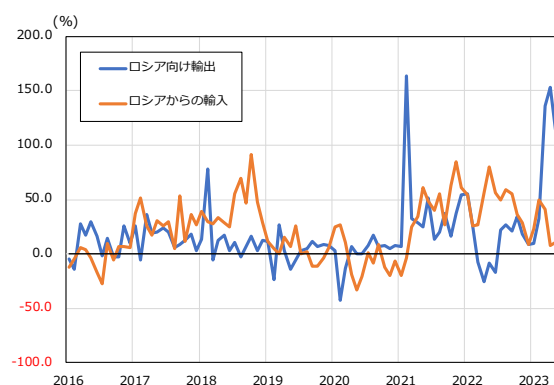
対米貿易収支は+287.2億ドル、1993年1月以降黒字が続いている(前月: +281.6億ドル)。対米輸出額は426.9億ドルで、前年同月比-23.7%と11カ月連続の減少。対米輸入額は139.7億ドルで、同-4.1%と3カ月連続の減少であった。

対EU貿易収支は+190.9億ドルで、2020年3月以降40カ月連続の黒字となった(前月: +200.7億ドル)。対EU輸出額は439.6億ドルで前年同月比-12.9%と2カ月連続の減少。対EU輸入額は248.7億ドルで、同-0.7%と3カ月連続の減少であった。

対ロシア貿易収支は-17.3億ドルで、2カ月連続の赤字となった(前月: -20.4億ドル)。対ロシア輸出額は95.5億ドルで前年同月比+90.9%と12カ月連続の増加。対ロシア輸入額は112.8億ドルとなり、同+15.7%と28カ月連続の増加となった。輸出の大幅な伸びが続いており、貿易総額は月別過去最高額を更新した。

総じてみれば、対ロシア貿易を除き、前月に続いてどの地域からの貿易も前年同月比は減少となっている。海外経済の減速の影響が大きい。

対ロシア輸出入の伸び(ドル・ベース, 2016年1月~23年6月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース

(3) 工業生産

6月の工業生産は前月比+0.68%と2カ月連続の上昇となった。前年同月比では+4.4%の上昇で、前月(同+3.5%)から+0.9%ポイント加速した。

産業別(主要20産業ベース)では、電気機械・機材製造業(前年同月比+15.4%)、化学原料・化学製品製造業(同+9.9%)、有色金属圧延加工業(同+9.1%)等が増産となった。一方、医薬製造業(同-2.1%)、繊維工業(同-0.4%)、非金属鉱物製品製造業(同-0.4%)等が減産となった。なお、前月まで3カ月連続で2桁の伸びとなっていた自動車製造業は同+8.8%の伸びにとどまった。

工業生産指数(2016年1月~23年6月)



(出所) 中国国家统计局, CEICデータベース

なお、サービス産業生産指数を見ると、6月は前年同月比+6.8%と上昇したものの、前月(同+11.7%)から減速した。

サービス産業生産指数(2017年1月~23年6月)



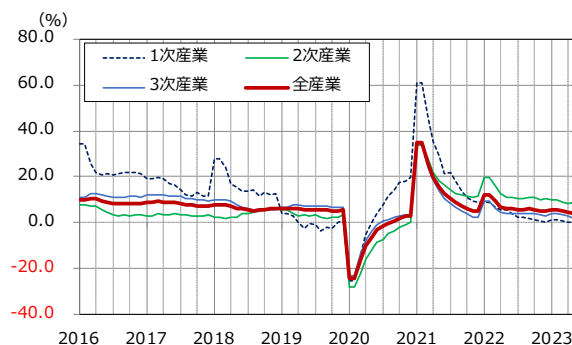
(出所) 中国国家统计局, CEICデータベース

(4) 固定資産投資

1-6月期の累積固定資産投資(名目: 24.3兆元)は前年同期比+3.8%増加し、1-5月期(以下、前月)から-0.2%ポイント減速した。うち、国有企業の固定資産投資(11.5兆元)は同+8.1%増加(前月:同+8.4%)。一方、民間固定資産投資(12.9兆元)は同-0.2%と2カ月連続の減少となった(前月:同-0.1%)。

産業別に見ると、第1次産業は前年同期比+0.1%の増加(前月:同+0.1%)、第2次産業は同+8.9%の増加(前月:同+8.8%)、第3次産業は同+1.6%の増加(前月:同+2.0%)となった。第3次産業の伸びは4カ月連続で減速した。

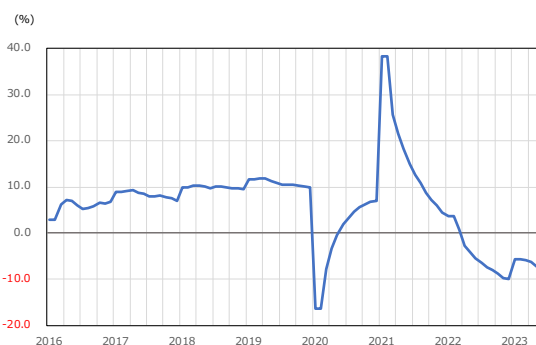
固定資産投資(産業別)累積伸び率(2016年1月~23年6月)



(出所)中国国家统计局, CEICデータベース

また1-6月期の不動産投資をみれば前年同期比-7.9%と減少(前月:同-7.2%)。22年4月以降15カ月連続のマイナスが続いており、減少幅は4カ月連続で拡大している。

不動産投資累積伸び率(2016年1月~23年6月)

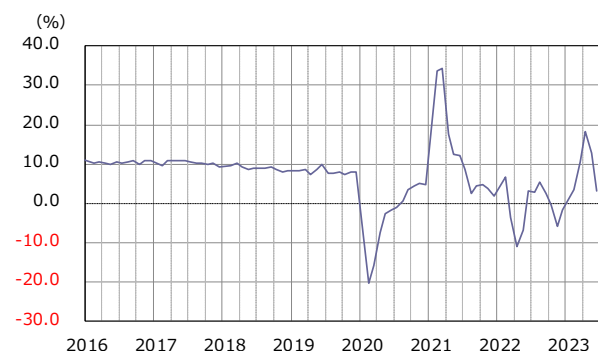


(出所)中国国家统计局, CEICデータベース

(5) 消費

6月の社会消費品小売総額(名目)は4.00兆円で前年同月比+3.1%増加し、伸びは2カ月連続で縮小した(5月:同+12.7%)。全体の1割を占める飲食店収入は同+16.1%と、伸びは前月より大幅縮小した(前月:同+35.1%)。また、商品小売は同+1.7%にとどまっている。住宅販売の低迷が響き、家具や家電などの耐久財消費は回復が緩慢であることが影響した。なお、電子商取引の小売総額は1.47兆円で、前年同月比+9.8%の増加だが、伸びは前月(同+17.3%)より縮小した。前年4月から5月にわたって実施された上海市のロックダウンに対する反動増が6月にほぼなくなったため、前年比伸びは前月から大幅縮小した。

社会消費品小売総額(2016年1月~23年6月)



(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

(6) 物価水準

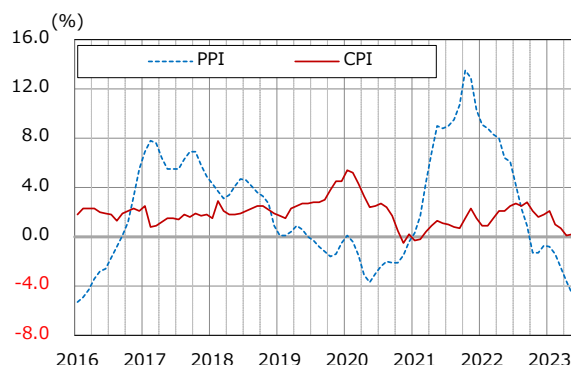
6月の消費者物価指数(CPI)は前年同月から横ばいとなった。うち、食品価格は前年同月比+2.3%と15カ月連続で上昇し、伸びは2カ月連続で加速した(前月:同+1.0%)。うち、豚肉は同-7.2%と2カ月連続で低下し、低下幅は前月から大幅拡大した。生鮮野菜は同+10.8%と5カ月ぶりに大きく上昇した。また、原油価格の下落を反映し、ガソリンなど交通燃料は前月に続き2桁の低下となった(6月:同-17.6%、5月:同-11.1%)。

なお、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は前年同月比+0.4%上昇したが、伸びは前月(同+0.6%)より小幅減速した。うち、自動車やバイク(同-4.3%)、スマートフォンなど通信機器(同-1.5%)や家電(同-1.8%)などの耐久消費財価格の下落が続いている。また、サービス価格は同+0.7%と上昇したが、伸びは前月(同+0.9%)から小幅減速した。

生産者物価指数(PPI)は前年同月比-5.4%と、9カ月連続のマイナスとなった。下落幅は6カ月連続で拡大し(前月:同-4.6%)、15年12月(同-5.9%)以来の値となった。財別に見ると、鉱工業などの生産工程に投入される製品をまとめた生産財価格は同-6.8%と9カ月連続で低下し、下落幅は前月(同-5.9%)より拡大した。うち、工業用生産財価格は同-4.7%と11カ月連続で低下し、下落幅は5カ月連続で拡大した。

国内外需要が低迷しているため、PPIの下落が9カ月続いていることに加えて、CPIは3月に1%を切り、6月には2年4カ月ぶりに上昇が止まった。

消費者物価指数・生産者物価指数(2016年1月~23年6月)



(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

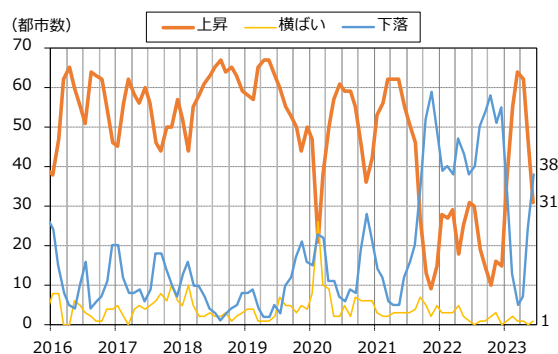
(7) 不動産市場

6月に、中国主要70都市のうち、新築住宅価格が上昇した都市数は31で前月から15都市減少し、3カ月連続のマイナスとなった。一方、下落した都市数は38で前月から14都市増加し、3カ月連続のプラスとなった。なお、横ばいの都市数は1で前月から1都市増加した。価格が下落した都市数は6カ月ぶりに半数以上となった。

なお、市場の需給をより反映しやすい中古物件ベースでは、価格が下落した都市数は3カ月連続で大幅に増加し、全体の90%を占めている(前月:79%)。

3月に大きな改善が見られた不動産市場は、前月から再び冷え込んできた。住宅販売の不振は家電や建材など関連産業の需要を下押しすることになっている。今後、住宅市況が持ち直すかどうかは雇用と所得の改善に懸かっている。

主要70都市新築住宅価格動向(2016年1月~23年6月)



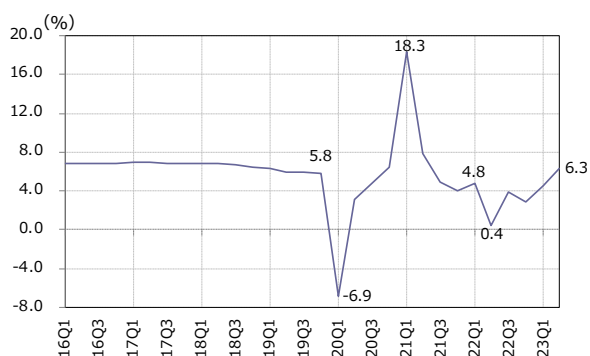
(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

(8) GDP

4-6 月期の実質 GDP は前年同期比+6.3%と 13 四半期連続の上昇となり、1-3 月期の同+4.5%より加速した。しかし、その背景には前年同期に上海市で実施されたロックダウンに対する反動増の影響が大きい。なお、季節調整値で見ると、4-6 月期の実質 GDP は前期比+0.8%と、1-3 月期(同+2.2%)より減速した。年率に換算すると成長率は+3.2%にとどまっている。

産業別では、第 1 次産業は前年同期比+3.7%(前期：同+3.7%)、第 2 次産業は同+5.2%(前期：同+3.3%)、第 3 次産業は同+7.4%(前期：同+5.4%)となった。前年同期に上海市で実施されたロックダウンに対する反動増の影響もあり、第 2 次産業と第 3 次産業の回復が加速した。

実質 GDP 成長率の推移(2016 年 Q1~23 年 Q2)



(出所)中国国家統計局、CEIC データベース

(9) 中国経済レビュー

4-6 月期、中国の実質 GDP は前年同期比+6.3%と 1-3 月期より加速した。1-6 月期で見ると前年同期比は+5.5%であり、中国政府が掲げた 23 年通年の目標である+5.0%程度を上回っている。しかし、その背景には前年同期に上海市で実施されたロックダウンに対する反動増による影響が大きい。

季節調整値で見ると、前期比は+0.8%にとどまっており、1-3 月期(同+2.2%)より減速している。

足下 6 月の工業生産は 2 カ月連続の前月比上昇、前年同月比でも前月から加速している。一方、輸出は 2 カ月連続で前年比減少となっており、中国経済回復の足かせとなっている。

個人消費は外食など対面型サービスを中心に改善が続いているが、前年のロックダウンに対する反動増が弱まったため、回復のペースが大幅減速した。家具や家電など耐久財の消費も依然として回復が緩慢である。その結果、消費者物価指数は 2 年 4 カ月ぶりに上昇が止まった。先行き、デフレに陥る可能性がある。また、住宅市場は前月から冷え込み、住宅価格が下落した都市数は半数以上に増加した。

なお、6 月に都市部の失業率は 5.2%であった。前年同月差では 4 カ月連続で改善しているが、依然高止まっている(5 月：5.2%、4 月：5.2%)。16~24 歳の若年層に限ると、失業率は 21.3%で、前年同月より+2.0%ポイント上昇した。雇用の回復が遅れることによって家計の先行き不安感が強まり、需要の回復に逆風となるだろう。

今後景気回復のカギとなるのが雇用の改善であるが、就業者の 8 割が働く民間企業の収益回復が遅れている。5 月末時点で民間企業の 28.1%は赤字となっている。各年の同時点と比較して、その割合は確認できる 2001 年以降で最高である。民間企業の収益が改善し雇用拡大に踏み込むまで、雇用の大幅な改善は見込めないだろう。そのため、7-9 月期の経済成長率は前期より減速する可能性が高い。

Contact : 野村亮輔・吉田茂一

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計 1】

| | 22/7M | 22/8M | 22/9M | 22/10M | 22/11M | 22/12M | 23/1M | 23/2M | 23/3M | 23/4M | 23/5M | 23/6M |
|-----------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 生産 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]鉱工業生産指数(季節調整値、15年=100) | 92.8 | 95.8 | 97.0 | 95.6 | 94.2 | 94.4 | 88.6 | 90.5 | 92.1 | 91.6 | 89.6 | NA |
| 前月比(%) | -1.0 | 3.2 | 1.3 | -1.4 | -1.5 | 0.2 | -6.1 | 2.1 | 1.8 | -0.5 | -2.2 | NA |
| [関西]鉱工業出荷指数(季節調整値、15年=100) | 91.4 | 93.9 | 95.2 | 98.9 | 93.6 | 93.6 | 88.8 | 91.0 | 92.8 | 90.6 | 89.6 | NA |
| 前月比(%) | -1.7 | 2.7 | 1.4 | 3.9 | -5.4 | 0.0 | -5.1 | 2.5 | 2.0 | -2.4 | -1.0 | NA |
| [関西]鉱工業在庫指数(季節調整値、15年=100) | 103.2 | 104.6 | 105.3 | 106.5 | 107.3 | 105.4 | 103.5 | 103.1 | 103.7 | 104.6 | 104.2 | NA |
| 前月比(%) | 1.3 | 1.4 | 0.7 | 1.1 | 0.8 | -1.8 | -1.8 | -0.4 | 0.6 | 0.9 | -0.3 | NA |
| [全国]鉱工業生産指数(季節調整値、20年=100) | 106.3 | 107.8 | 107.3 | 105.5 | 105.5 | 104.9 | 100.8 | 104.5 | 104.8 | 105.5 | 103.2 | NA |
| 前月比(%) | 0.6 | 1.4 | -0.5 | -1.7 | 0.0 | -0.6 | -3.9 | 3.7 | 0.3 | 0.7 | -2.2 | NA |
| [全国]鉱工業出荷指数(季節調整値、20年=100) | 104.9 | 105.7 | 105.0 | 104.4 | 104.0 | 102.8 | 99.5 | 103.8 | 104.7 | 104.5 | 103.3 | NA |
| 前月比(%) | 0.7 | 0.8 | -0.7 | -0.6 | -0.4 | -1.2 | -3.2 | 4.3 | 0.9 | -0.2 | -1.1 | NA |
| [全国]鉱工業在庫指数(季節調整値、20年=100) | 100.6 | 101.7 | 103.4 | 103.2 | 103.2 | 103.1 | 102.4 | 103.4 | 103.8 | 103.7 | 105.6 | NA |
| 前月比(%) | 0.7 | 1.1 | 1.7 | -0.2 | 0.0 | -0.1 | -0.7 | 1.0 | 0.4 | -0.1 | 1.8 | NA |
| 労働 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]完全失業率(季節調整値、%) | 2.8 | 2.7 | 2.6 | 2.8 | 3.0 | 2.8 | 2.7 | 3.0 | 3.1 | 2.9 | 2.7 | NA |
| (原数値、%) | 3.0 | 2.8 | 2.6 | 2.8 | 2.7 | 2.6 | 2.6 | 2.9 | 3.1 | 3.1 | 2.8 | NA |
| [全国]完全失業率(季節調整値、%) | 2.6 | 2.5 | 2.6 | 2.6 | 2.5 | 2.5 | 2.4 | 2.6 | 2.8 | 2.6 | 2.6 | NA |
| [関西]有効求人倍率(季節調整値) | 1.17 | 1.19 | 1.20 | 1.21 | 1.23 | 1.23 | 1.22 | 1.21 | 1.20 | 1.21 | 1.21 | NA |
| [全国]有効求人倍率(季節調整値) | 1.28 | 1.31 | 1.32 | 1.34 | 1.35 | 1.36 | 1.35 | 1.34 | 1.32 | 1.32 | 1.31 | NA |
| [関西]新規求人倍率(季節調整値) | 2.28 | 2.23 | 2.24 | 2.30 | 2.31 | 2.28 | 2.38 | 2.32 | 2.30 | 2.29 | 2.30 | NA |
| [全国]新規求人倍率(季節調整値) | 2.32 | 2.30 | 2.30 | 2.33 | 2.38 | 2.38 | 2.38 | 2.32 | 2.29 | 2.23 | 2.36 | NA |
| [関西]名目現金給与総額(2府4県、前年同月比%) | 1.9 | 3.2 | 2.9 | 2.3 | 4.2 | 3.3 | 0.1 | 0.4 | 2.9 | 2.5 | NA | NA |
| [関西]実質現金給与総額(2府4県、前年同月比%) | -1.0 | -0.1 | -0.4 | -2.0 | -0.2 | -1.3 | -4.9 | -3.3 | -1.0 | -1.6 | NA | NA |
| [全国]現金給与総額(前年同月比%) | 1.3 | 1.7 | 2.2 | 1.4 | 1.9 | 4.1 | 0.8 | 0.8 | 1.0 | 2.5 | NA | NA |
| 小売 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]大型小売店販売額(10億円) | 317.7 | 295.9 | 288.0 | 310.5 | 321.0 | 404.8 | 319.4 | 286.4 | 317.5 | 308.2 | 314.9 | NA |
| 前年同月比(%)、全店ベース | 2.8 | 6.2 | 7.1 | 6.6 | 4.7 | 5.4 | 7.2 | 7.9 | 6.2 | 6.6 | 6.3 | NA |
| [全国]大型小売店販売額(10億円) | 1,770.4 | 1,677.6 | 1,630.4 | 1,732.6 | 1,759.0 | 2,226.6 | 1,768.1 | 1,581.9 | 1,767.4 | 1,709.5 | 1,743.7 | NA |
| 前年同月比(%)、全店ベース | 3.3 | 4.3 | 4.8 | 4.9 | 3.0 | 4.1 | 5.5 | 5.2 | 3.6 | 5.3 | 3.7 | NA |
| 物価 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]消費者物価指数 総合(原数値、20年=100) | 102.0 | 102.3 | 102.8 | 103.4 | 103.7 | 103.8 | 104.4 | 103.7 | 104.2 | 104.8 | 104.9 | 104.7 |
| 前年同月比(%) | 2.3 | 2.7 | 2.7 | 3.5 | 3.7 | 3.9 | 4.2 | 3.1 | 3.3 | 3.5 | 3.4 | 3.2 |
| [関西]生鮮食品を除く総合(原数値、20年=100) | 101.9 | 102.1 | 102.5 | 103.1 | 103.5 | 103.8 | 104.1 | 103.4 | 103.9 | 104.6 | 104.6 | 104.5 |
| 前年同月比(%) | 2.1 | 2.5 | 2.7 | 3.4 | 3.5 | 3.8 | 4.1 | 2.9 | 3.2 | 3.4 | 3.3 | 3.1 |
| [関西]生鮮食品及びエネルギーを除く総合(原数値、20年=100) | 100.7 | 100.9 | 101.2 | 101.9 | 102.2 | 102.4 | 102.6 | 102.9 | 103.5 | 104.3 | 104.7 | 104.7 |
| 前年同月比(%) | 1.3 | 1.6 | 1.8 | 2.6 | 2.9 | 3.1 | 3.4 | 3.5 | 3.9 | 4.3 | 4.6 | 4.5 |
| 住宅・建設 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]新設住宅着工(原数値、戸数) | 11,445 | 12,691 | 12,090 | 13,918 | 11,279 | 10,986 | 11,245 | 10,673 | 13,445 | 10,360 | 10,649 | NA |
| 前年同月比(%) | -13.2 | 13.4 | -2.8 | 18.4 | -1.5 | 7.7 | 28.8 | 20.3 | 2.0 | -20.9 | 9.9 | NA |
| [全国]新設住宅着工(原数値、戸数) | 72,981 | 77,712 | 73,920 | 76,590 | 72,372 | 67,249 | 63,604 | 64,426 | 73,693 | 67,250 | 69,561 | NA |
| 前年同月比(%) | -5.4 | 4.6 | 1.0 | -1.8 | -1.4 | -1.7 | 6.6 | -0.3 | -3.2 | -11.9 | 3.5 | NA |
| [関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数) | 10,365 | 13,300 | 11,388 | 13,354 | 10,965 | 11,648 | 13,645 | 11,164 | 13,009 | 9,130 | 11,839 | NA |
| 前年同月比(%) | -9.7 | 28.3 | -14.4 | 17.3 | -17.9 | 6.2 | 17.1 | -18.2 | 16.5 | -29.8 | 29.7 | NA |
| [全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数) | 68,736 | 75,209 | 71,391 | 72,557 | 69,869 | 70,486 | 74,397 | 71,598 | 73,062 | 64,219 | 71,824 | NA |
| 前年同月比(%) | -2.4 | 9.4 | -5.1 | 1.5 | -3.7 | 0.5 | 5.5 | -3.8 | 2.0 | -12.1 | 11.8 | NA |
| [関西]マンション契約率(季節調整値) | 65.4 | 72.3 | 74.3 | 79.1 | 75.6 | 72.8 | 72.9 | 47.4 | 71.6 | 71.6 | 61.8 | 74.5 |
| 原数値 | 65.8 | 77.0 | 71.5 | 74.4 | 74.3 | 74.8 | 69.3 | 51.6 | 73.7 | 67.8 | 61.0 | 75.6 |
| [首都圏]マンション契約率(季節調整値) | 62.5 | 63.4 | 64.2 | 72.9 | 75.6 | 75.6 | 55.0 | 72.3 | 73.6 | 68.1 | 73.7 | 65.8 |
| 原数値 | 60.7 | 62.0 | 61.6 | 71.9 | 69.4 | 74.8 | 54.6 | 73.3 | 79.5 | 73.7 | 74.3 | 67.8 |
| [関西]建設工事(総合、10億円) | 584.2 | 615.6 | 641.1 | 651.1 | 664.1 | 679.1 | 688.5 | 694.2 | 684.6 | 631.4 | 620.9 | NA |
| 前年同月比(%) | 8.8 | 11.3 | 10.0 | 8.8 | 6.5 | 6.8 | 9.1 | 12.4 | 10.9 | 11.2 | 11.2 | NA |
| [全国]建設工事(総合、10億円) | 4,128.1 | 4,364.4 | 4,612.5 | 4,764.8 | 4,819.1 | 4,846.6 | 4,778.6 | 4,685.2 | 4,717.5 | 4,288.3 | 4,172.2 | NA |
| 前年同月比(%) | 0.8 | 2.8 | 2.6 | 2.0 | 2.5 | 2.5 | 4.7 | 5.8 | 5.0 | 5.7 | 6.0 | NA |
| [全国]建設工事(公共工事、10億円) | 1,558.2 | 1,698.7 | 1,877.8 | 2,007.3 | 2,063.6 | 2,115.0 | 2,108.9 | 2,047.3 | 2,101.2 | 1,507.7 | 1,427.5 | NA |
| 前年同月比(%) | -3.5 | 0.1 | 1.3 | 0.9 | 1.0 | 3.4 | 6.8 | 8.4 | 6.8 | 8.3 | 9.6 | NA |
| [関西]公共工事前払保証額(10億円) | 118.5 | 122.0 | 141.2 | 178.6 | 79.3 | 80.3 | 64.9 | 82.3 | 173.8 | 268.5 | 216.7 | 293.3 |
| 前年同月比(%) | -15.8 | 0.0 | -6.2 | 30.6 | -1.6 | -10.4 | 5.3 | 25.3 | 3.0 | -19.8 | 39.7 | 64.4 |
| [全国]公共工事前払保証額(10億円) | 1,292.4 | 1,156.2 | 1,298.5 | 1,055.8 | 696.1 | 628.3 | 508.8 | 897.8 | 1,530.1 | 2,048.0 | 1,416.3 | 1,815.1 |
| 前年同月比(%) | -7.0 | -0.1 | 2.4 | -1.9 | -7.6 | -8.4 | -2.3 | 52.2 | 5.5 | 1.9 | 11.8 | 9.9 |
| 消費者心理 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]消費者態度指数(季節調整値) | 31.1 | 32.7 | 30.2 | 29.4 | 28.2 | 29.4 | 30.2 | 31.5 | 35.0 | 36.8 | 38.3 | 37.1 |
| 暮らし向き(季節調整値) | 29.4 | 32.5 | 28.7 | 28.0 | 26.0 | 26.9 | 27.2 | 28.9 | 30.4 | 33.5 | 35.1 | 35.1 |
| 収入の増え方(季節調整値) | 35.2 | 35.4 | 35.1 | 34.5 | 33.8 | 34.0 | 35.1 | 35.7 | 38.5 | 38.6 | 39.4 | 39.0 |
| 雇用環境(季節調整値) | 36.1 | 37.9 | 33.5 | 32.5 | 31.6 | 33.9 | 36.2 | 38.1 | 42.1 | 44.9 | 48.9 | 43.6 |
| 耐久消費財の買い時判断(季節調整値) | 23.6 | 26.6 | 22.8 | 22.2 | 21.1 | 23.0 | 22.1 | 23.0 | 27.6 | 30.2 | 31.5 | 31.0 |
| [全国]消費者態度指数(季節調整値) | 30.1 | 32.2 | 30.8 | 30.5 | 29.7 | 31.0 | 31.3 | 31.3 | 33.9 | 35.4 | 36.0 | 36.2 |
| 景況感 | | | | | | | | | | | | |
| [関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値) | 40.0 | 44.7 | 50.1 | 48.8 | 48.7 | 49.8 | 50.4 | 53.6 | 55.2 | 56.4 | 55.5 | 54.5 |
| [関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値) | 43.9 | 48.6 | 48.0 | 45.9 | 45.4 | 46.6 | 48.6 | 52.7 | 56.5 | 56.4 | 55.2 | 54.3 |
| [全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値) | 43.9 | 45.5 | 48.9 | 50.8 | 49.4 | 48.7 | 48.5 | 52.0 | 53.3 | 54.6 | 55.0 | 53.6 |
| [全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値) | 43.7 | 49.0 | 49.2 | 47.1 | 46.3 | 46.8 | 49.3 | 50.8 | 54.1 | 55.7 | 54.4 | 52.8 |

注：鉱工業生産 輸送機械工業は船舶・鉄道車両除く。
NAはデータ未公表であることを示す

【主要月次統計 2】

| | 22/7M | 22/8M | 22/9M | 22/10M | 22/11M | 22/12M | 23/1M | 23/2M | 23/3M | 23/4M | 23/5M | 23/6M |
|-----------------------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 国際貿易 | | | | | | | | | | | | |
| (関西)貿易収支(10億円) | -36.4 | -69.5 | 73.7 | 63.5 | 19.6 | 206.3 | -280.2 | 252.7 | 264.0 | 248.2 | 66.6 | 277.2 |
| 前年同月比(%) | -113.7 | -133.1 | -66.8 | -85.2 | -75.6 | -27.5 | 72.3 | 45.3 | -2.8 | 37.5 | -217.2 | 105.8 |
| 対アジア(10億円) | 196.5 | 109.0 | 182.0 | 161.4 | 126.2 | 276.5 | -138.6 | 297.3 | 209.3 | 211.5 | 171.2 | 216.0 |
| 前年同月比(%) | -33.3 | -60.6 | -33.7 | -55.9 | -36.3 | -13.6 | 963.2 | -6.5 | -34.0 | -39.5 | -12.0 | -15.6 |
| 対中国(10億円) | -63.5 | -116.0 | -82.4 | -113.2 | -115.8 | -16.3 | -268.9 | 27.6 | -69.7 | -70.7 | -61.6 | -34.4 |
| 前年同月比(%) | - | 666.4 | 53.5 | - | 172.9 | - | 27.5 | -34.8 | 225.6 | 500.1 | -30.6 | -59.6 |
| 対ASEAN(10億円) | 23.6 | 6.4 | 27.4 | 32.4 | 19.5 | 30.3 | -22.0 | 41.4 | 48.1 | 67.3 | 64.8 | 60.7 |
| 前年同月比(%) | -56.3 | -76.2 | -61.4 | -51.0 | 269.0 | -18.3 | 32.6 | 69.8 | -33.9 | 0.9 | 34.4 | -0.4 |
| 対米国(10億円) | 72.2 | 131.4 | 154.0 | 168.5 | 159.8 | 139.3 | 110.6 | 160.7 | 181.1 | 177.0 | 122.5 | 177.4 |
| 前年同月比(%) | -23.0 | 56.4 | 47.9 | 0.8 | 89.5 | 4.5 | 45.0 | 36.4 | 21.2 | 15.9 | 2.1 | 1.1 |
| 対EU(10億円) | 15.3 | 3.9 | 35.6 | 45.4 | 19.1 | 52.5 | 2.3 | 26.1 | 24.9 | 35.3 | -1.0 | 10.4 |
| 前年同月比(%) | - | - | - | 54.0 | - | 1,001.2 | - | - | - | - | - | -98.7 |
| (関西)輸出(10億円) | 1,857.1 | 1,759.3 | 1,930.6 | 2,001.7 | 1,898.1 | 1,930.1 | 1,410.3 | 1,660.4 | 1,898.5 | 1,774.3 | 1,567.2 | 1,807.7 |
| 前年同月比(%) | 19.5 | 15.7 | 19.5 | 15.6 | 18.9 | 9.5 | -0.2 | 5.1 | 1.3 | 0.8 | -6.4 | -7.1 |
| 対アジア(10億円) | 1,237.5 | 1,096.7 | 1,225.8 | 1,242.8 | 1,188.0 | 1,231.3 | 867.5 | 1,023.5 | 1,165.0 | 1,062.9 | 995.9 | 1,118.5 |
| 前年同月比(%) | 16.2 | 6.8 | 12.6 | 9.5 | 10.0 | 4.0 | -7.4 | -2.9 | -3.1 | -7.0 | -10.1 | -10.4 |
| 対中国(10億円) | 490.2 | 428.5 | 470.2 | 463.9 | 457.3 | 471.4 | 296.0 | 377.2 | 457.3 | 403.1 | 381.8 | 430.9 |
| 前年同月比(%) | 17.7 | 6.8 | 12.9 | 0.7 | 5.4 | 0.2 | -12.4 | -4.4 | 0.3 | 2.8 | -6.8 | -9.3 |
| 対ASEAN(10億円) | 313.1 | 278.8 | 325.5 | 328.3 | 314.7 | 303.9 | 253.6 | 275.3 | 312.9 | 279.3 | 277.6 | 300.5 |
| 前年同月比(%) | 19.1 | 30.6 | 27.4 | 29.3 | 28.8 | 13.6 | 15.9 | 7.6 | 2.4 | -6.9 | -2.8 | -5.7 |
| 対米国(10億円) | 241.3 | 301.4 | 305.5 | 347.0 | 325.5 | 284.3 | 237.6 | 276.6 | 323.1 | 317.8 | 263.9 | 315.6 |
| 前年同月比(%) | 18.1 | 49.6 | 40.4 | 26.1 | 55.0 | 16.2 | 24.9 | 30.7 | 12.1 | 17.2 | 7.7 | -0.0 |
| 対EU(10億円) | 202.7 | 178.5 | 201.9 | 215.9 | 196.1 | 220.7 | 148.9 | 182.9 | 186.9 | 199.6 | 157.8 | 188.0 |
| 前年同月比(%) | 35.9 | 16.2 | 20.4 | 19.4 | 24.6 | 25.0 | 1.6 | 12.2 | -9.3 | 9.8 | -4.9 | -0.9 |
| 美質輸出(日本銀行:2020=100) | 112.0 | 108.4 | 110.7 | 112.9 | 112.5 | 109.0 | 106.0 | 107.3 | 106.3 | 108.4 | 104.3 | 106.9 |
| 前月比(%) | -2.0 | -3.2 | 2.1 | 2.0 | -0.4 | -3.1 | -2.8 | 1.2 | -1.0 | 2.0 | -3.8 | 2.5 |
| (関西)輸入(10億円) | 1,893.5 | 1,828.8 | 1,856.9 | 1,938.2 | 1,878.5 | 1,723.8 | 1,690.4 | 1,407.7 | 1,634.5 | 1,526.0 | 1,500.7 | 1,530.5 |
| 前年同月比(%) | 46.8 | 39.7 | 33.2 | 48.6 | 23.9 | 16.6 | 7.2 | 0.2 | 2.0 | -3.4 | -13.3 | -15.5 |
| 対アジア(10億円) | 1,041.0 | 987.7 | 1,043.9 | 1,081.4 | 1,061.8 | 954.9 | 1,006.1 | 726.2 | 955.7 | 851.4 | 824.7 | 902.5 |
| 前年同月比(%) | 35.1 | 31.6 | 28.2 | 40.6 | 20.5 | 10.5 | 6.0 | -1.3 | 8.0 | 7.3 | -9.7 | -9.1 |
| 対中国(10億円) | 553.7 | 544.5 | 552.5 | 577.2 | 573.1 | 487.6 | 564.8 | 349.6 | 527.0 | 473.8 | 443.4 | 465.2 |
| 前年同月比(%) | 34.3 | 30.8 | 17.6 | 38.6 | 20.3 | 4.4 | 2.9 | -0.8 | 10.4 | 17.3 | -11.0 | -16.9 |
| 対ASEAN(10億円) | 289.5 | 272.4 | 298.1 | 295.9 | 295.3 | 273.7 | 275.6 | 233.9 | 264.8 | 212.0 | 212.8 | 239.8 |
| 前年同月比(%) | 38.7 | 46.0 | 61.6 | 57.6 | 23.5 | 18.7 | 17.1 | 1.1 | 13.7 | -9.1 | -10.4 | -7.0 |
| 対米国(10億円) | 169.1 | 170.0 | 151.6 | 178.4 | 165.7 | 145.0 | 127.0 | 115.9 | 142.0 | 140.8 | 141.5 | 138.2 |
| 前年同月比(%) | 52.9 | 44.7 | 33.6 | 65.1 | 31.9 | 30.3 | 11.4 | 23.6 | 2.3 | 18.9 | 13.1 | -1.4 |
| 対EU(10億円) | 187.4 | 174.6 | 166.3 | 170.5 | 177.0 | 168.2 | 146.6 | 156.7 | 162.0 | 164.4 | 158.8 | 177.6 |
| 前年同月比(%) | 10.3 | -9.5 | -14.3 | 12.7 | 7.5 | -2.1 | -28.3 | -21.6 | -29.5 | -32.0 | -34.7 | -21.4 |
| 美質輸入(日本銀行:2020=100) | 112.6 | 108.2 | 105.0 | 113.2 | 108.9 | 105.2 | 102.8 | 97.9 | 102.2 | 103.1 | 95.9 | 98.0 |
| 前月比(%) | 4.3 | -5.6 | -3.0 | 9.7 | -5.1 | -3.6 | -2.5 | -5.6 | 4.2 | 0.0 | -7.2 | 2.3 |
| 原油及び粗油(10億円) | 133.5 | 135.2 | 139.5 | 140.7 | 133.2 | 121.0 | 73.0 | 83.3 | 85.6 | 65.1 | 71.2 | 51.6 |
| 前年同月比(%) | 218.5 | 194.2 | 315.7 | 210.4 | 105.0 | 134.9 | 28.7 | 13.4 | 49.9 | -40.8 | -32.4 | -55.2 |
| 原油及び粗油(1000KL) | 1,332.3 | 1,407.6 | 1,416.6 | 1,450.8 | 1,426.0 | 1,471.0 | 996.7 | 1,159.3 | 1,192.4 | 940.1 | 960.1 | 672.6 |
| 前年同月比(%) | 61.1 | 58.5 | 114.2 | 72.8 | 31.4 | 67.6 | -0.1 | -1.8 | 42.4 | -31.7 | -21.8 | -44.8 |
| 原油価格(円/KL) | 100,227.7 | 96,019.8 | 98,489.9 | 97,014.2 | 93,421.8 | 82,243.8 | 73,237.0 | 71,865.0 | 71,827.1 | 69,292.9 | 74,179.3 | 76,769.7 |
| 前年同月比(%) | 97.7 | 85.6 | 94.1 | 79.6 | 56.0 | 40.2 | 28.8 | 15.5 | 5.2 | -13.4 | -13.5 | -18.8 |
| 為替レート(月平均:円/ドル) | 136.6 | 135.2 | 143.1 | 147.0 | 142.4 | 134.9 | 130.2 | 132.7 | 133.9 | 134.9 | 137.4 | 141.2 |
| 前月比(%) | 2.1 | -1.0 | 5.8 | 2.7 | -3.1 | -5.3 | -3.5 | 1.9 | 0.9 | 0.7 | 3.0 | 2.8 |
| (関西国際空港)外国人入国者数(人) | 25,189 | 34,311 | 41,456 | 116,658 | 247,090 | 331,249 | 379,298 | 369,191 | 425,327 | 471,895 | 501,210 | 552,492 |
| 日本人出国者数(人) | 26,008 | 42,797 | 37,649 | 48,515 | 51,940 | 64,060 | 63,437 | 88,078 | 120,211 | 85,653 | 113,563 | 119,404 |
| 中国モニター | | | | | | | | | | | | |
| 購買担当者景況指数(PMI):製造業(%) | 49.0 | 49.4 | 50.1 | 49.2 | 48.0 | 47.0 | 50.1 | 52.6 | 51.9 | 49.2 | 48.8 | 49.0 |
| 非製造業(%) | 53.8 | 52.6 | 50.6 | 48.7 | 46.7 | 41.6 | 54.4 | 56.3 | 58.2 | 56.4 | 54.5 | 53.2 |
| 輸出額(100万ドル) | 332,964 | 314,921 | 322,755 | 298,372 | 295,501 | 306,079 | NA | 214,026 | 315,589 | 295,418 | 283,499 | 285,322 |
| 輸入額(100万ドル) | 231,697 | 235,527 | 238,012 | 213,218 | 226,253 | 228,066 | NA | 197,205 | 227,399 | 205,210 | 217,692 | 214,702 |
| 貿易総額(100万ドル) | 564,661 | 550,448 | 560,767 | 511,590 | 521,753 | 534,145 | NA | 411,231 | 542,988 | 500,628 | 501,191 | 500,024 |
| 貿易収支(100万ドル) | 101,267 | 79,393 | 84,744 | 85,154 | 69,248 | 78,013 | NA | 16,821 | 88,191 | 90,208 | 65,807 | 70,619 |
| 工業生産:前月比(%) | 0.31 | 0.16 | 0.84 | 0.21 | -0.37 | 0.06 | NA | 0.12 | 0.12 | -0.47 | 0.63 | 0.68 |
| 前年同月比(%) | 3.80 | 4.20 | 6.30 | 5.00 | 2.20 | 1.30 | NA | 2.40 | 3.90 | 5.60 | 3.50 | 4.40 |
| 名目社会消費品小売総額:前年同月比(%) | 2.7 | 5.4 | 2.5 | -0.5 | -5.9 | -1.8 | NA | 3.5 | 10.6 | 18.4 | 12.7 | 3.1 |
| 消費者物価指数:前年同月比(%) | 2.7 | 2.5 | 2.8 | 2.1 | 1.6 | 1.8 | 2.1 | 1.0 | 0.7 | 0.1 | 0.2 | 0.0 |
| コア消費者物価指数:前年同月比(%) | 0.8 | 0.8 | 0.6 | 0.6 | 0.6 | 0.7 | 1.0 | 0.6 | 0.7 | 0.7 | 0.6 | 0.4 |
| 生産者物価指数:前年同月比(%) | 4.2 | 2.3 | 0.9 | -1.3 | -1.3 | -0.7 | -0.8 | -1.4 | -2.5 | -3.6 | -4.6 | -5.4 |

注:貿易収支の前年同月比の計算で比較の符号が異なる場合は"-"表記とした
NAはデータ未公表であることを示す

【Release Calendar】

| Monday | Tuesday | Wednesday | Thursday | Friday |
|--|--|-----------|--|---|
| 26-Jun | 27-Jun 近畿地域 鉱工業生産動向 (4月:確報) | 28-Jun | 29-Jun 商業動態統計 (5月:速報) 消費動向調査 (6月) 全国貿易統計 (4月:確報) 全国貿易統計 (5月:確・速報) | 30-Jun 全国鉱工業指数 (5月:速報) 一般職業紹介状況 (5月) 労働力調査 (5月) 建築着工統計調査 (5月) 中国 PMI (6月) |
| 3-Jul 近畿圏貿易概況 (4月:確報) 近畿圏貿易概況 (5月:確・速報) | 4-Jul | 5-Jul | 6-Jul 百貨店・スーパー販売 状況(5月:速報) | 7-Jul 毎月勤労統計調査 (5月:速報) |
| 10-Jul 景気ウォッチャー調査 (6月) 中国 CPI(6月) | 11-Jul | 12-Jul | 13-Jul 中国貿易統計 (6月) | 14-Jul 全国鉱工業指数 (5月:確報) 公共工事前払保証額 統計(6月) 出入国管理統計 (6月:速報) 中国不動産市場 (6月)** |
| 17-Jul 海の日 中国工業生産(6月) 中国固定資産投資 (6月) 中国消費小売総額 (6月) | 18-Jul 商業動態統計 (5月:確報) 建設総合統計 (5月) 中国 GDP (4-6月期) | 19-Jul | 20-Jul 近畿地域 鉱工業生産動向 (5月:速報) マンション市場動向 (6月) 全国貿易統計 (6月:速報) 近畿圏貿易概況 (6月:速報) | 21-Jul 全国 CPI (6月) |
| 24-Jul 百貨店免税売上 (6月) 実質輸出入 (6月) | 25-Jul 毎月勤労統計調査 (5月:確報) 出入国管理統計 (5月)* | 26-Jul | 27-Jul 近畿地域 鉱工業生産動向 (5月:確報)* | 28-Jul 全国貿易統計 (5月:確報) 全国貿易統計 (6月:確・速報) |

*印は発表予定日が未定。

**印は公表日が週末。